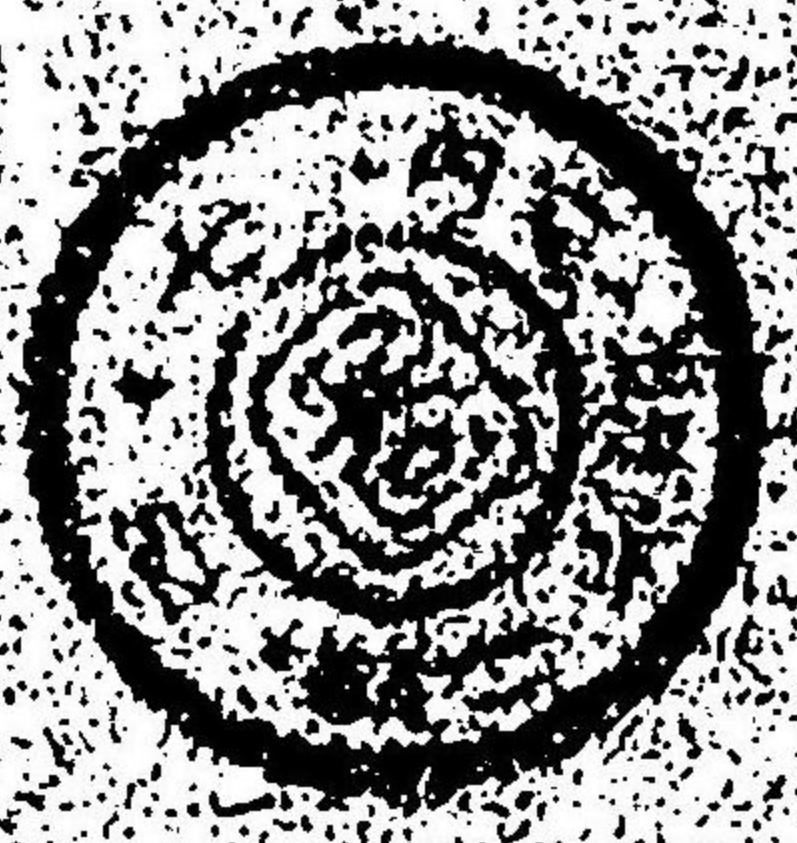


社
公
司
印
記



社會黨瑣聞序

利ハ害と相伴以得ハ失と相逐ふ利も未た其害を脱する能ハ迄得も
未た其失を去る能ハ迄是洵も古今の常勢理も於て已むべくらざる
ものある歟今や歐米に於ける文明の利器ハ驚くべき速力を以て非
常の勢力を顯發し風雲雷霆採て其用も供せられざるなく山岳河海
取て其資も充もざるなく實も吾人の一擧手一投足ハ以て宇内の經
濟を動すべしと外國の形勢を變ぜべし其旺盛偉なりと云べし然れ共
熱其内部を顧みれば轉々悵然たらざんばあるべからざ否仔細も之
を觀望せられれば慄然として毛髮爲も寒を生するあり破衣赤脚の子
ハ飢寒を叫ぶの聲日々其多きを加へ心を傷ましむる貧院もハ無告
の民孤兒寡婦老病廢疾癡狂のもの既も充塞して其幾百千なる

之を知らざり強勢なる資本家の憐むべき勞力者と競争して常之を
 苦しめ富盛なる地主の貧賤なる小作人を壓却して曾て其頭を擡ぐ
 るの餘地なりらしむ於此渠れ許多無數なる貧人の全く文明社會の
 外に驅逐せられて僅かなる樞紳豪家資本地主特り十九世紀を形
 成する是を以て富者の益富み貧者益貧しく強者愈強弱者愈
 弱なり於此乎社會黨あり共產黨あり虛無黨あり各秘密の盟を結
 び肯て不逞の志を抱き現時の社會を更革の一擧して十九世紀の文
 明を破壊し微塵も留ならざるに至らしめんとす故に世人往々之を
 稱して破壊主義と云ふ蓋し其生ざるや洵に己むべりらざる所ある
 べしと雖ども其破壊主義を執るに及んで吾人厭く迄も之を排除
 せざるを得ざり嗚呼我國海禁を解て三十年長足の進歩萬國を驚嘆せ

いぬ新鮮の文物五州と相馳逐す随つて社會の組織漸く變じ豪族巨
 家日愈多し如此にして已まざらん彼の轍を踏んで破壊主義の
 萌芽を見るべきのみ今の肉眼能く利を見る然れども心能く其害を
 見るならん眼能く益を見る然れども心能く其損を見るならん百事百物
 豈に利と害と相伴ふなきを得んや今や十九世紀將に盡んとす吾人
 は此文明の利器を二十世紀に於て益擴張せんとす然れども其弊
 害を併せて之を遺るに忍びず國家を念ひ社會を憂ふるの士苦心經
 營すべきの事蓋し此點にある乎予嘗てミナガン大學にあり聞く現
 今の情勢にして變化なくんば世界に冠絶せる北米合衆國の渾ての
 富は數十年を出でして一百人以内の富者の掌裡に落ちんとすと之
 を要するは生産と分配とをして其宜きを得せしめ以て富の一方は

傾くを防ぎ互に不平均不融通ならしめざるべりらば我國未だ此
 害毒に浸染せざ幸甚し矣伊勢の人石谷君齋藏夙に見る所あり斯學
 を研究せり頃日社會黨瑣聞を著しし序を予に徵す予匆忙多務未だ
 君の書を読んで君と是非を論議するの暇あらば唯君に此種の智識
 を傳播し以て社會を警戒するを悦ぶ而已

明治廿四年二月廿一日東京瀧山町自由新聞社樓上ニ於テ

米國法律學士 茂木虎二郎 識

社會黨瑣聞自序

春曉城中春睡多、遶樑燕雀聲虛呀、非上高樓撞巨鐘、桑榆日暮猶昏夢、
 大鹽後素先生が頼山陽お贈り時事を論じたる諷刺の詩なり而して先
 生の時に當り所謂天保の大饑饉存餓路傍お斃れ丁壯四方お散し而し
 て富商家糴して糶らず物價爲お倍蓰し幕吏傍觀賑恤の策を講する
 ものなく人心洶々たり獨り先生之を慨して嘗て藏する散帙衣服刀劍
 類と束ねて悉く之を鬻ぎ貧民お分與し盡し終り同志を團結し天保八
 年の義舉……身を殺して仁を爲したりき

世界の廣き宇宙の大なる先生と轍を同ふする人も亦少なからず
 ノ、モ、ー、レ、ー、氏、ハ、日、耳、曼、人、ナ、リ、曩、ハ、社、會、黨、條、例、の、爲、メ、本、國、の、退、去、を、命、
 せられ水村山郭數千里の遠きお流寓して米國お來り非常の待遇と受
 け一千八百八十三年(今を去ると八年前)二月十一日バルチモア府に於

て慷慨悲愴の演説を爲して曰く

……吾人の自由を買ふ腕力の一手段も外ならず(過去の歴史が證明する如く)即ち銃砲を購求するの吾人の最も必用なるものなり又最も携帯も便利なるものにして若し不必用なるときは一偶も安置するを得べし(大喝采)此時辨士の中止を命せられたり曰く
氏の止むと得ず左の語を筆大お書して壇上も貼上げたり曰く

“Nur pulver und Blei, Die machen uns free.”

「只鉛塊及び火薬の吾人を自由ならしむ」と

此時數萬の聴衆一齊に兩手を擧げ(中よ短銃を擧げざるものありとりき)喝采天地を震動せり而して其湧生しざる概念も横溢したる精神も晒落の風質も於ても硬性の主義も於ても共にお大鹽先生と相伯仲したりき而して其社會も於ける一の名士を以て厚遇せられ一の亂臣と

以て妄評せらる悲ひ哉若大鹽先生として足一たひ徳川の羈絆を脱して米國の地と踏ましめ軍破れ氣沮喪し火と放て無殘屯否の最後と遂げざりしならんか

紛々たる政黨亂れて麻の如く貧民問題の朝野の間お躊躇り一部の細民の日々も餓死せんとする者數千人天保の饑饉も嘗ならざる時お當り先生若しあらば數多木ホイス、ボリチンゲンの葉天狗の政治家を制御して英國のアルサーピール氏の如く佛國のフロツケト氏の如く議院中第一流の人となりフリーリヤカベットの流の主義も據り平民政治の根據と植へ世の所謂貧民の救世主として尊敬せられ青史も赫々の名を輝すの人たりしお相違あるまじきなり

然れども先生の時今の時と異なり故も今の時亦先生の時も非ず先生の確守せし王陽明の良知良能の説も今日も及んで腐敗せし所なきも

非すと云ふべからず是時又當て歐州斬新の貧民問題の鎌倉の初松魚
 と化して武藏野の原に入り人心の良と拈り轅を返し失を悟らしむる
 又偏疆なる獲物なりと云ふも可ならん抑も貧民問題とい何ぞや曰く
 歐州社會黨の學理是なり

社會黨とい社會黨、虛無黨、共產黨、借金黨、破壊黨、變亂黨、ダイナマイト黨、
 勞役社會黨、革命社會黨、無政府社會黨、奴隸撲滅黨等の十餘種の區別あ
 れども之を概するは社會の平等——土地の自由、器械の自由、人身の自
 由、金錢の自由——を圖るを疑なきあり佛國のブローホン氏の獄狂に
 在るや審判官曰く汝は社會黨あるやブローホン氏曰く然り審判官曰
 く然らば社會黨とい如何ある目的を有するものあるやブローホン氏
 答て曰く吾人の目的は社會の改良を企圖する執念は外あらずと審判
 官曰く其説明の如くんば吾人も亦社會黨ありと此時ブローホン氏の

微笑して曰く是即ち實を予か欲する所なりとラベレ著ソシヤリズム、
 ナブツデー(而して社會黨の中より竹鎗席旗の暴擧を企つるもありダ
 イナマイトを掲げて革命を起すもあり穩當勤直と旨とするクウペレ
 シヨノンもあり其數枚擧げ暇あらずと雖も要するは均しく是れ政治
 海裡の一黨派なり飛んで急流となり激して奔湍となる原と皆一滴の
 水のみ社會上有形の一現象のみ何ぞ畏懼するは足らん世の山水を描
 くもの却て急流奔湍を擇んで其能と著す獨り政治海に於て然
 らざるもの多し怪むべしと云べし彼のウエプスター氏の如きミル氏
 の如き社會黨に向て一言の非難する所あざりき就中ウエプスター
 氏の如き社會黨とい政府の最も善良なる公正なる組織を企望する黨
 派なりと云ひしもの非ずや近來歐州に於て漸次社會黨の漫延するや
 十九世紀學問の燒點とも云べき獨逸の如き宗教社會黨又ハ學士社

會黨ソシヤリスムと云へるものと組織し宗教家又ハ學士間も大ニ行ハるゝもの
非ズヤ我國の有司が其名を聞て直ニ之を蛇蝎視するハ笑ふべきの甚
しきニ非ズヤ

高井山城守ハ天下の明奉行を以て聞ヘ大盤先生の亂を起す以前ニ任
メ大坂ニ在シ人ナリ嘗て藤田東湖翁ニ語テ曰ク予の職を退カざる以
前ニ予ハ予の誕生日を以て内外の多人數を饗應シタルとアリキ大盤
も其席ニ列リシカ忽チ有リ合ふ魚を頭より尾まで美事ニ嚼碎キ箸ト
床下ニ擲チ一禮をも爲サズ袖を拂フテ出門シタリキ其後時を経て予
之を誥リシハ料理の肴ニ甲頭魚アリケレハ(金頭と音相 通ずるもの)三井鴻池、岩城等
の金頭ハ饑ハ泣クの貧民を賑恤セズ幕吏も亦貪慾飽クなくして民情
と視察すると稀ナリ之と思ヒ胸中禁ずると能ハズ此舉メ及びタリト
謝シケレハ予も感シ入りテ共ニ落涙を催シタリト

嗚呼今日の世ハ當て不景氣の嘆聲ハ四海ニ普ク言フメ忍ビス聞クハ
堪ヘズ薪ハ桂の如ク食ハ玉の如キもの多く楚國の前途圍ルベカラズ
るものアリ此事獨リ天保の昔……高樓ハ上リ巨鐘を撞キ金頭を嚼ミ
碎キ奮然トシテ起チタル大盤後素先生トシテ杞憂セシメタルのみナ
らんヤ聊カ書シテ以テ自序メ代フト云爾

明治辛卯の歲二月東都神田の僑居メ認む

社會黨瑣聞例言

一 本書ハ社會黨トハ取捨折衷する所ありと雖も現世社會黨英語ハ所謂ソシヤリズムの義にして過激なる彼の虛無黨破壞黨等ハ非ざるなり

一 本書ハ同盟罷工ハ被雇者ヲ雇者ト向テ相打撃する英語ト所謂ストライキを譯したるものなり

一 本書ハ人名場所物件等其何たるハ係らざ英語を其儘ト假名字ト使用したるものハ——を付加して區別す假令ハロケデル人名フランナル物件ピサンコン場所等の如シ

一 本書ハ引用書目の外ハ和漢の書籍及び雜誌新聞等より参考せし所少ららざ

引用書目

French and German Socialism.

By Richard T. Ely, Ph. D.

Studies in Modern Socialism.

By T. Edwin Brown, D. D.

Socialism.

By John Stuart Mill.

Cooperative Commonwealth.

By Laurence Gronlund.

一予幼よして慈父り清の陸氏著す所の康濟録を講ぜらるゝを聞き
初めて斯學よ志し東奔西走十餘年嘗て同人社東京専門學校よ學
び皆業半ばにして爲す所無りりしや米國よ赴きウイリヤム、ケ
ント氏の許よ寄寓し名士ヲコンチル、ヲ、ブレーション諸氏と警咳よ
接するを得て稍斯道よ詳なるよ似たり然れとも予性疎慢狂狷
文辭よ明ならざ爲よ此書隔靴搔癢の嘆多し讀者夫れ之を諒せよ
頃る書庫を開て康濟録を繙きけれハ洗心洞藏書記と云へる印證
あり豈圖ん予り幼時斯學よ志せし康濟録ハ大塩後素先生の藏書
なりしとい

明治廿三年二月十六日

著者識

社會黨鎖聞目錄

第一章 貧民

第二章 貧困

第三章 貧民救助と慈善心

第四章 同盟罷工

第五章 器械の發明ハ文明を益するに足らざ

第六章 クウペレーション

第七章 歐州社會黨主義の梗概

第八章 社會黨用語の解釋

第九章 近世社會黨の主義

第十章 社會黨の萌芽并其沿革

第十一章 米國の社會黨

第十二章 佛國社會黨員の畧傳

バレット氏

カベット氏

セン、シモン氏

フリーヤ氏

ブランク氏

プローホン氏

ジュル、シモン氏

第十三章

英國社會黨員ロバート、チーエン氏并み其主義の政社

第十四章

日耳曼社會黨員の略傳

ロツバタス氏

モツクス氏

ラッセル氏

第十五章

近時日耳曼に於ける社會黨の勢力

社會黨瑣聞

石谷 齋 藏 著述

第一章 貧民

或人佛國有名のガンベッタ氏に諮問したりき社會上の疑問の如何と
其の標榜意氣并み魁秀豪邁能く一世を推倒するに足る忽ち答てノ
と云へり而して氏の「此消極の答辨を能く解得するもの」世上幾く人
々あると學士チエドゥイン、ブラチン氏の評したりき

然り世界の人口の日に益々繁多と告げ人種の漸次に増加し社會上の
事事の復雜に復雜と加ふるの日なれば従て出来る社會上の疑問及び
之を整頓維持するの法方も亦正に周密ならんとす現に世界の多數を
占めたる貧民論の如きも實に其社會上の疑問として輕忽にすべから
ざる一難問なりとす

西曆一千八百五十七年五月二十三日英國有名のマコーレー卿其優美艷麗の筆と揮ふて在亞米利加なる卿の親友の許へ貧民を論して曰く

新育州民の過半の饑餓に號哭せざるも朝に働きた夕に費す所謂日雇の人足なるべく是等の貧民の日々多數を占むる事なれば未來何れの日か立法を選定するの時機を得るなるべし果して然れば立法の種類は如何あるものを選定すべきり一方の貴族者流の政治家ありと假定せよ一方の資本家の殘虐を鳴らし賃銀の低下を論ずる平民政治家ありと假定せよ此兩者何れも能く曉し星と頂て出て夕お月を踏んで歸る勞働者の撰擧者も向て其候補を擇ばしむべきか予の斷して社會の平民主義も傾き盡きざるを得ずと信ず將來汝米國のハンス及びバンダルスに汝の邦國より産出し第五世紀も於て

羅馬帝國を無殘に蹂躪せしか如く來る二十世紀も於て米國自由の邦國の貧民の一桃源たるべしと

此豫言の獨り米國も溜らざるなり然るも世界の潮流の一方も向て滿ち一方も向て欠き參政の權利を得るものも多く富者も傾き到る所數多の貧者……勞働者の百結の襪襪を纏ひ慘怛悽愴の狀を悲みつゝ軋軋憂愁の間も其日を送りつゝ世に擧て尊氏の代となり箇人の政治も陥りつゝあるなり有名の社會黨員コールモリス氏曰く貧者の益も其數を増して益も貧も富者の益も其數を減して其富も倍すと勢ひ「金」の力が物を言ひ「金錢」多く富めるものの上流も立ち貧きものも奴隸の苦みを受けざるを得ず而して其天賦の稟性を問へば等く一なり才能を問へば均く一あり人權を問へば又同一なり然るも宇宙の社會問題……肉體上の關係の宛然と大岐路を生じて元素となり化合物とな

り果よき願ふも元素の基礎なり化合物の枝葉なり世界人種の原素たるべき數多の貧民の「緇袍無表、顔色腫噲、手足胼胝、三日不舉火、十年不製衣、日々夜々苦腦出精して僅か露命と繋き口糊を濕すの狀」家徒も壁立ち屢屢炊きをなす司馬相如百里奚の比のみならん而して一方の「不耕而食、不織而衣、肥馬輕車、お乗駕し酒池肉林の慾も厭き奢侈を極めて驕る平氏の昔を氣取るものあり無端フリーヤ氏をして善良の社會といへ徒食事をなすも懶なるものよして凡ての階級中最も怠慢なるものを云」と慨嘆せしめたり此等の人々の所謂金満家素封家と稱し古へ賢財王公の富も敵したる陶朱倚頓も及ばざるべき段實のものよして今試みよ其統計を擧て之を計算すれば凡そ七百人あり

百磅以上の財産を有する七百人の中よ就き英國よの二百人合衆國

よの一百人獨逸澳太利よの一百人佛蘭西七十五人露西亞よの五十人印度よの五十人其他の國よ一百廿五人よして其内重なる者を擧ぐればバシエゴールド氏の財産五千五百萬磅所得貳百八拾萬磅マツケイ氏財産五千萬磅所得貳百五拾萬磅ロスチャルド伯の財産四千萬磅所得貳百萬磅ツアンダーヒールド氏の財産貳千五百萬磅所得貳百貳拾五萬磅シュイビッシュン氏の財産貳千萬磅所得壹萬磅なりと云ふ (以下畧之)

吾人四億の人員の大半の此等少數の人口の爲よ勞働せる者よして是等の富者の富を増すか爲めの機械動物……汲々孜々賃銀として得る所の只己か肉を刻き瘡を醫するよ足るのみ而して其結果の餘裕ある人種よ餘裕を生せしめんか爲め資本家よ利益を得せしめんか爲めよ勞働苦慮しつゝあるなり「筐篋已富、府庫已實、而百姓貧」とい是此謂なり

碩學ジョン・スチュアート・ミル氏の英國ホートナイト・レビューに投書したる
 社會黨論より曰く

労働者所謂下等者流……貧民の資本家の殘虐を被むると今日に至
 て極れりと云べし歐洲開化の邦國……英佛の諸國に於て其無殘な
 る酷烈なる状況の吾人の嘗て聞き得たる野蠻未開の種属も稀よ
 觀る所なるべしと想像せらるゝあり今若し羅馬のネロ或はドミナ
 ヤンある暴戾の帝玉か顯われ出で下民に競走を命じ若し是より劣り
 後れたる十五人乃至二十人を死罪に所すべしと云へば人体の強壯
 あるもの走るも迅速なる輩の假令罪せられざるもせよ其罪惡の
 均く一あり社會理財學上に於けるも亦同じく假令一部人民の満
 足を表するもせよ天然の欠乏道德の不正數多の不満足者……市
 場形菜色あれば如何ぞ之を不問に措くことを得ん社會秩序の紊亂

の蓋し此微妙の間は芽萌すべきありと

予の尙歩武を進めて貧民の大數なることを證せんか爲め尾崎愕堂氏の
 英京倫敦より通信に係る貧民の多少と云へる一章を掲げん

歐洲各國は貧民の多きとの貧民救助局などの報告を見て粗其梗概
 を承知せしが米國より來りて見れば其多きを感じると更に切なり
 米國の事業多くして人少き故働きさへすれば下賤なる勞役者と
 雖ども尙一日貳三弗の金を得べく且人皆其富裕なることを誇示する
 る熱心にて賤民に至るまで全力を盡して其衣服を飾る故襤褸を纏
 へる貧民を見ると甚だ少し之を反して天下第一の富國たる英國よ
 り至る所として弊衣徒跣の貧民を見ざるのなく乞食の非ずして
 獨立の生計を營む所の勞役者と雖も米國に比するときは極めて粗
 惡なる衣服を着用し居れり日本に遊べる英人の常は貧民と雖ども

餘り見苦しからざる衣服を着け居たりとて日本も貧民の少きを嘆稱するとなるが成る程英國も乞食同様なる貧民の多き實も非ざるにて中々日本の及ぶ所も非ず下等なる勞役者の体裁も日本の方が遙かよ小奇麗なり況んや米國の生計費の凡そ英國も二倍すと云も不可なき事なるも實況如此なるを見れば以て人多くして業少く生計を立てるの甚だ困難なるを知るべし上流富貴の紳士貴女の錦衣玉食驕奢贅澤至らざる所なきも下流の貧民に至ては饑を充たし寒を防ぐすら出來ず徒跣泥土の間を徘徊し父子相顧みて其不遇を嘆ず社會黨共產黨の現出するも無理あらぬ次第と申すべし斯く不釣合ある世態の何十世紀迄永續すべき乎貧民の群衆の富者の壓制も堪へずして早晚此偏重なる社會を破壊するの憂なき乎

英國の富者の皆竊も此大患を恐るゝものと見え政府も貧民の處分

よの種々心と惱まし一私人も瀕りも醜金と諸般の慈惠院と設置せり公衆の醜金も成れる病院其他無代價にて貧民と救助する者の多き實も驚くばかりなり斯く富者の費用と吝まらずして貧民の歡心と收めんと欲するも貧民の中々之れも満足せずして數々トラファルガアスクアヤあどみ大集會と催ふして金満家を嚇かす不都合千萬なる者共かなど云人もあるべけれども其原因は深く藏れて社會の組織中もあり何予必ずしも無智の貧民を咎めんと

井上毅氏も亦貧民を論じて曰く

歐洲は於て貧民救助に關して二説あり即ち英國學者の通常唱道する所の貧民救助の經濟の原則は原かさるものなれば之を自然に放任すべしと云へる説と獨逸學者の専ら主張する所の貧民救助の社會の構成上必要な者にて社會の秩序を保持する上は於て必要な

る者なりと思考す彼の獨逸國の近來其兵力は於て向ふ所敵なく歐洲は雄視せりと雖も近世紀の始めに於てはフランス デンブルグの一小國たるは過ぎざりとなり而して佛魯埃等諸強國の間は介立して一躍富強の一大國となりし遠因は獨逸先王の民心を得たるは因れり殊にフレデリック大王の如きの親しく國內を巡視して民の疾苦を訪ひ少しの餘財あれば之を窮民に救恤し苛政を除き税歛を薄ふし及ふ限りの力を盡して窮民を撫恤せり傳へて今代に至る迄の帝王は皆フレデリック大王の施政に則り勉めて貧民を救恤するとよ力を盡せり故に獨逸は於て貧民を救恤するといふ市町村の公義務となせり是を以て獨逸の皇室は貧民との關係甚だ親密にして貧民は皆皇室の恩澤を浴し深く之を感戴せり是他邦に於て其類例を見ざる所なり故に政府(現今獨逸の帝室内閣)として皇室と一体なりと於て國

會を解散するときの次回の議員必ず王黨の人即政府と同意見の人を多く出すを例とす歴代の仁惠深く人民の骨髓に入るると凡そ是の如し余は歐洲の社會の

「早晚解裂破滅の時來るべし」と

信す何となれは歐洲の社會の中等社會と下等社會との距離次第は遠かり下等社會の益は窮迫し赴き飢餓を叫ぶに至り中等以上の社會の愈々富の度と増加して豪華を極むるは今日一般の光景なるが其光景の永續すべき筈なし見るべし歐洲各國至る所社會黨の勢力は日一日より増長するを幸として未だ耶蘇教の慈善主義上下の間は多少の勢力を有するを以て紳士社會の慈善の事よ力を盡す者少うらざるは多少窮民の心と和くるを得るなり日本の如きは慈善の事業更に擧らざるも幸として貧富の懸隔未だ甚しからず且貧民は

教育乏しければ未だ社會黨の發生を見ずと雖も今日に於て大に警戒する所なかるべからず夫れ貧富の懸隔の文明に赴くに従ひ競争の結果より必然生すべき理あれば國家の社會を保持する義務として貧民救助の事を力を盡さざるべからず況んや日本の如き宗教も冷淡なる國にして孔孟道德の説既に地を落ち民心日お輕薄を流るゝの今日に於てをや然るゝ近來日本の社會の法律的の思想増加せると共に貧民に對する感情も從て乾渴を赴き警察署に於ても乞食征伐の力を盡す様をあれり然れども目下窮民困厄の情態を察するときは實に憐むべき者少からず然るゝ貧民に對するの情此の如き輕薄なるときは決して國家の美事と非す余の屢々路次に於て木ひろい紙ひろい入る可からずと云ふ如き標札を見ると少からず此の如き我社會人心の貧民に對する感情極めて冷薄なる招牌なり婦人

慈善會と稱し鹿鳴館に於て高貴の婦人が品物を賣買する如きを決して眞誠なる慈善の事業と稱すべからざるのみならず之を爲め言ふべからざる弊害を引起すべき恐れなきと非す余の眞誠な貧民を救恤すべき目的を以て起る各種の慈善事業の續々發生せんとを希望して止まざるなり又社會の耳目たる新聞社會の少しく是等の事に注目せんとを望むや尤も切なり云々

論して茲に至り右二氏乃貧民論を推究すれば信を經世を志あるもの不覺案を打て默考流涕……困踏失望嗚呼の嘆を發せざるを得ざるなり而して斯く不平不満の結晶せる世界の游星の其財の因て來る源泉富の由來を搜索すれり思半ばも過ぐるものあらん世界の資財即ち富の今日より繁多なる時代の古來あらざりしならん大英國の如き僅か去四十五年間も其富を三倍し佛國の四倍も米國の去る三十七年

間六倍の多きを増したり而して米國労働者の賃銀を計算すれば朝より夕に至る一日の高四百萬弗の多額より歐米を統計して壹千壹百萬弗の總額を得るべし而して歐米を計算すれば死者の高を引き去り産出する小兒の總額一千一百人なり然れば之を人口に調して割合すれば壹千弗の生者一人に付其財産たらざるべからず然るも壹千壹百萬弗の賃銀の正當の道を踏まず常規定の豫約をなさず故に生者の受けざるのみか其兩親戚族皆果敢なき夢をだま結び兼ね悲歎の苦悔を沈み饑餓の深淵に陥り徒跣濫褻室の磔を懸るが如く家も擔石なく僅に露命を繋ぐのみ而して生者の財産たるべきもの無一物… 襤褸の中は僅少の滋乳を得るのみ實に現世の社會は日よ其富を増し其財を多くするも係らず尙衣食の欠乏を感じ飽温其全きを得ず饑餓道に横入り天道は是歟非歟と天を仰ぎ地を伏して嘘啼せしむるの

狀況なり故に予の労働者の餘裕ある富者の富を増さしむる機械動物なりと云ふも過言非ざるべしと信ずるなり

社會の事情既に斯の如くなるが故に世界の財富は日一日最高度より昇ると雖も一部人民が慾心を充すに足るのみにして不平不満の嘆聲は各地各國至る所喧闐たらざるいなし彼の英吉利や西班牙や佛蘭西や伊太利や日耳曼や皆其内部の労働者の境遇に於ける不平の怨恨、苦痛の號哭、叛逆の嘆息、言ふに忍びざるものあるに非ずや曩に巴里の大革命と云へる煙燄の破烈を生じ、不平等の紀念碑を生出し、其煙火や燻して無量の焦爛となり社會を散して火花をなす火花の變じて新來革命の基たるべき大火災を各國に波及せり世界の一箇物として相比隣し相接近し相櫛比するか故に其災の及ぶも亦宜なりと云べし巴里及新育、伯林及シカゴ、倫動及ポストン、の主として其影響を及ぼした

り彼の米國の如きの政治上の關係經濟上の手段より保護の城壁を設けて自國の富を維持するを得べけれども舊世界貧民の愁訴の之を拒絶するより由なく不滿不平の思想の鬱結せる強暴の洪水の之か流を留め溢亂を防禦するより策なくクーペレシヨノ勞働同盟會產業組合等の漸次繁榮を極むるに至れり況んや其他歐洲舊都の貧國をや必竟財産家と貧者の甚しく隔離する大火災の殆んど溜むべからざる世界の驚慌と知られたり世の曲學者流虚飾を以て自ら誇り夜會の費用一食萬錢を費し肥馬より乗り輕裘を看意氣揚々たるもの少しく猛省する所あるべきなり

第二章 貧困

予嘗て之を聞くアダムスミス氏の勞力者の給料の高低を引起す重要な事情を大別して五件となしければ普通理財學者の稱道する所となり讀者の皆之を知らるゝなるべしと雖も凡そ是等所謂忍苦の多き職業の却て報酬の少きものなり社會下層の生活となしつゝあるものなり若し孟子として之を評せしめれば不煖不飽謂之凍餒忍苦多き職業を執りつゝある力役者の幾んど皆凍餒の民なりと云ふならん凡そ(一)襤褸商の如き(二)石炭坑夫の如き(三)紙屑拾ひ車力雪駄直しの如き(四)火藥製造人の如き皆是巨多の危儉を冒犯し忍苦の多きものとして却て其報酬を問への快然として答ふべからず况んや給料の高き所より大概忍苦も亦大よして不公平不相當の報酬あるもの非ざるなりなど論ずるに至りては予筆を操て其面を唾せんとす概ね此等の報酬の忍苦

の多少も關係せず不公平不相當のものなり我之と聞く人力車夫の如き蒸氣火夫の如き其生命の凡そ卅四五歳より四十歳を以て限りとすと其職業の卑賤なり其勞力の度亦苛酷なり之を例するも短命あして終るもの多し然るも其報酬の如何之を問へば憂ふべきも似たり然る何か爲よ此劇職あ就き短命の最後と遂くるものあるや予筆を止めて沈思黙考稍之を久ふす時窓下隣々の響幽かよ耳朶も徹す路傍を走る車夫の苦しげも其客人も話すものと見たり

誰か好んで此様十業を致しましよ働ぬの妻や悴か餓まするし七十も餘る老母か糸延べ車あアナタ……ツマリお金がお金か無くて***

予之を聞て大お悟る所あり嗚呼貧困！貧困あして遂も此賤業と營むものなり貧困の即ちアダムスミス氏か給料の高低論を左右するも足

れり故も忍苦の多少も關係せず危険の事業も關係せず多くの恒産なく恒心なく飢寒あ迫り窮蹙衡凶其業を擇ぶ暇なく餓て死するより寧ろ此事を忍ぶものなり事情如此ものなるか故も報酬の割合も忍苦の多少あらざるなり

貧困とい何ぞや人間か窮阨瘁陋の界あ迫り倦極り力乏しく百計盡きて更あ如何ともするとなく韓宣子の之と憂ひ叔向の之と賀するものを云ふ或人の財無ものなりと極論せり嘗て我奈良朝も於て有名なる山上憶良の其豊富なる道強なる筆を以て當時の貧民の事を舒へ貧窮問答と題して曰く

風まじり 雨ふるよの 雨雜り 雪ふるよの 術もなく 寒くし
あれは 堅盤を 取りつゝしろひ 糟湯酒 打すゝろひて 志は
ぶかひ 鼻びしくみ 志かどあらぬ 髯かきあてゝ あれをお

きて人はあらしど ほとろへど 寒くしあれば 麻ぶすま 引
きかぶり 布かたぎぬ ありのことく 看そへども 寒きよ
すらを われよりも 貧しき人の 父母は 飢ゑ寒からん 妻子
どもは こひてなくらん この時は 如何よしつか 汝が代は
わたる

あめつちは 廣しといへど あがためは 狭くやなりぬる 月日
は 明しといへど あがためは 照りや給はぬ 人皆か 吾のみ
や志かる わくらばに ひどしはあるを 人なみに あれもなれ
るを 綿もあき 布かたぎぬの みるのぞと わしけさかれる
かいふのみ 肩に打ち懸け 伏いほの まけいほの内に ひた土
に 藁とき敷きて 父母は 枕の方に 妻子どもは 足の方に
圍み居て 憂へさまよひ 竈には 煙ふきたてず 甌よは 蜘蛛

の巢かきて 飯炊しく 事も忘れて ぬえ鳥の のどよひをるよ
いどのきて 短きものと 端きると いへるが如く 去もどと
る 五十戸長か聲は ねやどまで きたちよばひぬ かくばかり
すべなきものか 世の中の道

世の中の道

短歌

世の中をうしとやさしと思へども

とびたちかねつ鳥にしあらねば

室町將軍の頃 瀟洒磊落 危言高論の聞へ高かりし 卜部兼好法師は曰く
親のため 妻子のためには 耻とも忘れ 盗もしつべきことなり されば
盗人を警め 儼事とのみ つみせんよりは 世の人の 飢ゑす寒からぬや
うに 世をばあこなはまほしきなり 人恒の産き時は 恒の心なし人

窮りてぬすみず世治らずして凍餒の苦あらば科のもの絶ゆべからず人を苦しめ法とおかさしめてそれとつみおん事不便のわざありさていかゞして人を恵むべきとあらば上のおどり費す所をやめ民を撫で農を勧めば下お利あらん事疑あるべからず衣食よのつねあるうへおひがことせん人をすまことの盗人といふべき

貧民の情態の古來概ね此の如きものよして正直朴實廉恥を知るの輩と雖ども貧困お迫り親妻子の餓の爲お兼好か云し如く下賤の職業を執るものあり盗人ともあり惡漢ともあり錦心繡口氷肌膚、自紐枯葉作襦褌の類の人も多かるべし

キヤライル氏嘗て論して曰く貧困は今世英人の最も恐るゝ地獄なりとヘンリー、ヂョーヂ氏ハ其進歩プログレス、エッセ、ボナチと貧困論の中お頌して曰く宜かり貧困の開化の社會を剷燒香磨する最も無殘ある無邊波陀の地獄お相違

あくして彼の佛典のブサソダグヰイスニウお話しける最苛酷ナル苦痛の貧困其物ありと云へるの千古の格言なりと謂ふべく古來貧困より數多の損失過害を來し天賦の人權ヲ防げ恥辱侮慢を導き熱鉄を用ふるか如く吾人の道德及び心意の性質の最も敏捷ある部分と爛焦し最強き尊むべき感覺と最優美ある愛情と反撥し最必順の氣力を衰耗するものあり人の其子を愛し其妻と愛す是人間普通の情緒あり然るお生計の欠乏衣食の支へ難か爲め其妻其子が半死半生を觀るよりも簀を易へて其苦楚を減せしむるの勝れるよ如かざるを感ずるものある何ぞや凡る……夏の蟬……夕ぐれの蟋蟀……有生の動物として生と此世お享け地上お存在するものよして死を避けざるものあらんや況んや古人の白練の糸……蓼まじりの莖菜にも袖を濡せしお非ずや必竟人間の企望の生命を全くするより上乘あるのあかるべし然るお

貧困に迫れり己れか口は毒を含み或は己れか頭腦は短銃を放ち無殘千萬ある最後を遂ぐるもの其幾何あるを知らず特は歐州文明の邦國に於て年々自殺を企つるもの多き如何やと
 元來勞働者あるもの清廉潔白にして日々の勞役を盡して漸次其富を増加すべきありと論ずれば至極穩當あれども是机上の論にして實際の社會の宵越の錢を使用せざる有様之と概するは勞働者の貧困は必迫せるもの多し今日勞働者あるもの業は已は下等社會と云を意味し居るものありと知るべし嘗て世界は其人ありと知られたる賢人明哲も其勞働者中に入れたりし時の貧困窮蹙せしむ非ずやされん尋常不通の勞働者か餓に泣くも無理あらぬと云べしハムボルト氏の生涯の怠惰者流よてありしかフランクソン氏の其印刷業に従事せし時一日の満足と表せしとありしかスペンサー氏の放蕩游冶の輩よて

ありしか彼有名ある伊太利の彫刻畫家、建築家も其人ありと第十六世紀の芳名を耀したるミツチェル、アングロ氏の何故は木片衣類も其技を練習せしや

或の曰く勞力者の概ね下等人あり教育少きものあり道義心も乏しく禮節を知らず目前の快樂を貪るも汲々たるものなりと然れども社會百般の要素が下等人たらしむるものなり教育少からしむるものなり道義心も乏からしめ禮節を知らず目前の快樂を貪ぼるも汲々たらしむるものなり若し或障害物のなからしむれり如何は勞力者たりとも好んで下等人たるものあらんや障害物とい所謂近世の社會問題即ち貧富懸隔の致す所なり予は勞力者の下等人たり無教育者たり無智文盲者たるを責めんとする輩の寧ろ退て貧富懸隔の綱を結び其原因を講究するの良策たるを勸告せずんばあらざるなり

ヘンリー、デューク、ジョージ氏曰く人口稠密となり諸事頻繁となり生産及び交易の機械が發達し世の上進するに從ひ吾人の最悲愴なる貧困を生し最激烈なる争闘を醸し最嫌惡すべき懶惰者と生ずるものなりと尙氏ハ此語を確めて曰く今世物質の進歩の審は貧困を救濟せざるのみならず益之を倍蓰するものなりと之を例するに英國に於てハヘンリー第八世の朝より今日迄世態の進歩に從て貧民と増加せると夥しく疾病痴漢の兩院と設けて寺院救助の法方を編成したるとハ世人の耳染は残れる所なりエドワード六世ノ朝に於てハ三棟の皇立救助院を建設せり是即ち彼有名なるクライスト及びバシントン、トマス及びブライドウェルの貧院なりき其後エリサベス女王ハ更ハ貧民監督の法と定めて廢疾不具の勞役は堪へざるものを蒐合して整理の法を設けたり是即英國貧民律の濫觴なりと云ふべし一千七百八十二年英國ギルバ

ート議案ハ上下兩院を通過して公共の家屋を建設して市街は散布する貧人を救助せり然れども漸次貧民を増加して其慘狀名狀すべからず一千八百三十二年三月より同三十三年三月に至るまで貧民救助に費せし金額ハ一千三百八十九萬四千五百七十四戸の人口は比較し七百萬磅の多し及べり而して當時尙全く其根本と交徐すると能はず赤肝粟腕覆ふに物なく風霜凜冽の時ハ困蹙する者一百五十萬人ありと云ふ之を全國の富人に割合すれハ三百萬人ハ就き二百萬人なりと云ふ而して是等の貧民ハ漸次社會の多數を占むるものありとすれば前章掲げたるマコーレー卿の云へる如く政權とも有する時期の來るべきハ兎も角現時の社會組織ハ不完全として之を救恤するの策ハ乏し嗚呼社會の富者の益は富み貧者の益は貧あり吾人は是時ハ於てハ只金錢を成るべき丈多く貯蓄するより明案ハ非ざるべし世人決して耳を

洗ふの許由とあると勿れ藁一策と有する孫臋とあると勿れ假令濁流
 お飲み君子の天よ事ふるよ似ざるも華をとして周公旦の懇よ傲ひ紳
 士豪商となるとをのみ務めよ古人か辱莫辱多欲樂莫樂無求など云
 ひし究屈なる道理を學んより寧ろ大福長者を氣取り交換力の勢力を
 專有し貨幣の鑿索よ努力せよ晋の魯褒か錢神論中も曰く錢多きも
 の前ふ處り錢少きもの後お居ると實よ吾人の

Get money—honestly, if you can, but at any rate get money!

と叫ぶより外あし其不完全なると歐米諸國の資本家労働者の饑飽寒
 煥の間よ宛然對立して相闘争すると甚し貧富の關係終も同盟罷工と
 なりて永く憂愁の種となれり諸者以て如何トス

第三章 貧民救助と慈善心

予の前章既よ貧民の大數なると慘憺悲愴の有様なるとを論したり爰
 よ於て勢ひ之を匡濟する所謂貧民救助なるものと設けて慈善家宗教
 家道德家の必ず應分の義捐を醸し餘有の財と擲ち足らざるを恤まざ
 るべからずとす是れ自然の理よして人間の常情を備ふるもの測隱
 の心同情相憐むの感なかるべからず人の苦を見て憂ひ人の死と見て
 悲むは是れ天性人間の徳義なり然れども予の一概よ貧民救助の政府
 公共の義務なりとして良民の膏血を喰り以て一部の貧人を救ふもの
 或の其當と得ざるものなりと思惟するなり之を例するよ往古スバ
 ルタアゼン若くの羅馬の歴史を見るよ救恤の事一國公共の事務とな
 りて以て大よ良民を害し國民の元氣を腐敗せしめ又英國リチャード
 二世即位十二年(一千三百八十三年)の條例始めて貧民救恤の端を開き

しより弊害擧て云ふに堪へざりし一千八百三十二年に於ける調査委員の報して曰くイスデボンシャイに於て子を生むと愈々多ければ救助金の高愈々上るか故に婦人の愈々品行を破りて却て益々褒賞を得るの姿ありと又近くは我徳川政府の末年各藩に於て富豪の商家に御用金と賦課して以て公共の事務に使用したるか如き大に人民の信用と欠き人民も亦大に財産上の澁難を來し共々幽厲の苦を嘗むるに至る故に予は現今とても所謂代議政府の下にありて政府が其自己の手と以て貧民の救助を爲すに益なしと云べけれども其貧民の情態と忍ぶべからざるものとし一國の君主若くは富豪の人々個々が一己の徳義心より餓死せんとするものと死地を助くるものに基づり人間至善の義務と云ひざるを得ず其方法に至りては選擇する所あらずんば非常の弊害を生ずるとあるべし

我國の如きも開闢以來徳川氏の治世に至るまで賢君明相と稱せられたる政治家が法律制度の力と藉り若くは行政上の處分によりて常にお貧富の懸隔を矯正し慈善の主義を以て天下を治めたるものも歴史に瞭然たり本朝通記の著者永井定宗氏曰く

古之治國家者量入以爲出故取之有藝用之有節人君若驕侈不量出納之數取之不以其道用之無節財用常不足於是乎橫斂暴賦方起細民饑寒至售妻鬻子矣故人主立政之本在禁侈節用也

獨り永井氏に止まらず古來我國に侵入し來れる孔孟の學派の碩學鴻儒と稱へる人々は皆道義の重んずべく細民の疾苦を説き人君をして恣に利慾を逞ふすることを譴責し筆誅し先王の道に仁政を施すを以て基とし大に上下の間を調和せしものと見へたり孔子も仁不可爲衆也夫國君好仁天下無敵民之歸仁也猶水之就下獸之走壙也と云ひたり孟

子曰く、離婁之明、公輸子之巧、不以規矩不能成方員、師曠之聰、不以六律不能正五音、堯舜之道、不以仁政不能平治天下、今有仁心仁聞、而民不被其澤、不可法於後世者、不行先王之道也、是等ハ實ハ後世の慈善心あるべき偽政治家をして慙死せしむるも足るか齊の宣王ハ一牛の死と忍びず羊を以て之ハ易ヘ仁心を當時ハ知られ梁の武帝ハ終日一たび蔬素を食ひ宗廟麪を以て犧性となし死刑を斷れハ必ず之が爲めお涕泣し天下其慈善を傳て汗脊せざるものなきハ至る其他鰥寡ハ逃れ廢滯を振ひ乏困を匡ひ災患を救ひ淫慝を禁じ賦税を薄し罪戾を宥し器用を節し民を用ふるを時よし時を犯すとなきを欲したるもの其幾何なるを知らず

我邦ハ於てハ仁徳天皇の如き人烟起らず百姓窮乏の時ハ當り課役を除くと三年宮垣頽敗して營作せず三年の久ハ及び歡聲路ハ盈つるハ

至リ君以民爲本、民貧則朕貧也云々との賜ひしハ非ずや醍醐天皇の如きも寒夜親ら御衣を脱し玉ひ民間の凍餒を想察あらせられしハ非ずや其他言路を開き忠直を進め己を虚し諫を受け審諤の奏聞代議の政体ハ法リ大ハ仁慈の政を施したり故ハ姦臣道ハ當リ言語壅蔽の患なく上下の晏逸なりしなり終ハ二千有餘年の大平を致せり約言せば孔孟の仁聞、仁政の教預て力ありと云べし

予嘗て宋朝の名家理財家范文正公及び陳正仲の傳を讀み寺塔を起て荒歳を救ひたるとの政畧を奇とせり昨年貧民問題の瀕繁なるや時事新報の記者ハ貧民救助の一策なりとして家屋庭園の普請手入れハ着手せよ冠婚葬祭の儀式を盛よせよと論せしハ國民の友などよて事新らしく冷評を加へしが今此次ハ掲ぐる二氏の政策を見ハ思半ハ過ぐるものあらん

宋皇祐間、吳中大饑、范文正公領浙西、乃縱民競渡、與僚佐日出燕湖上、諭諸寺以荒歲工價廉、可大興土木、於是諸寺工作昇新、又新倉廩吏舍、日役千夫、監司劾奏、杭州不郵荒政、游燕興作、傷財勞民、公乃條奏、所以如此正欲發有餘之財、以惠貧者、使工伎傭力之人、皆得仰食於公、私不至轉徙填壑、荒政之施、莫此為大、是歲唯杭饑而不害、

近時莆陽一寺、規建大塔、工費鉅萬、或告侍郎陳正仲曰、當此荒歲、寺僧剝斂民財、興無益之土木、公為此邦之望、盍白郡禁止之、正仲笑曰、子過矣、建塔之役、寺僧能自為之乎、莫非傭此邦之人為之也、斂之於富厚之家、散之於貧窶之輩、是小民藉此以得食而贏得一塔耳、當此荒歲、唯恐僧之不為塔也、子乃欲禁之手、

右二氏の例を見れば、國家理財上より評すれば、非議すべき所あれども、兎も角東洋の政治家の慈善を基とし、猥りも壓制を設けて民を虐げざ

るを知るに足る此救恤の心の獨り儒家の胸中より胚胎したるお非ずして、印度の佛教も西洋の耶蘇教も亦齊く志貧民を存せり、基督山上より始めて教訓を垂るゝや、即ち曰く「爾曹貧者の福あり、神の國の即ち爾曹の所有なればなり、爾曹今饑たるもの福なり、飽くと得べければおり」と有名なる獨逸の神學博士ヒヤット氏の貧民問題を解釋するおの右手の理財學を繕き、左手の社會黨の學理を備へ、而して其机上の「新約全書」を閱讀せざるべからず、と氏か社會黨著書の短詩の中に謳頌せり、以て其教法の一斑を窺ふお足るべし、又佛教の中にも慈悲の欠くべからざるを説きたるもの多し、維摩經の註に曰く、

月氏王出行遊觀、有數千乞人在路側、舉手喝聲、各請所須、王問大臣、此是何人、何所陳說、臣答言、乞人也、王智慧利根、即解其意、語大臣曰、彼等我大

師、非乞人也、汝不解其言耳、彼所須者爲我說法、非爲乞也、彼言我等前世亦作國王、不脩布施、故受斯報、王今不施、後亦當爾、以此故當知是我大師也。

右の語中國王となれども布施……慈善を脩せざるか故に斯の報を受く王今施さざらんの後又當に爾るべし此を以ての故に數千の乞人の我大師なりと云ふに至りては讀むものをして釋教の深奥妙理と悟らしめ能く東洋の文明を保持して今日に至りたるの素あるを驚かしむ十地論の中にも菩薩三種を以て衆生を觀し大慈の悲と起す云々實に衆生濟度の佛教の主義として菩提涅槃の清淨を知り……墨畫を描きし松風の音……吾人々類の幸福富貧平等の極樂界と企望せしむ相違なきなり

以上述ぶるか如く儒佛耶共々皆貧民の憐むべき狀況なることを推論し

王者の獨り專横なることを道德上より封緘し諫箴せり然れども耶蘇教に於ては傳播以來日尙淺く其勸化せられたる所明治の新青年のみ新日本に顯れ來る現象のみ然れども佛教の其由來最も古く欽明の朝より數多政治上の治亂興廢の有りたりしとも係らず文學を維持し道德と破滅せざりし所以のもの一は佛法に由らずんばあらず降て徳川氏の如きも大に釋氏を尊信したり其旨趣豈經筵に倍し茶華の末技を修するに止まらんや予嘗て徳川十代の頃も生存せし名僧白隱和尚の傳を讀み彼の有名なる佛國の基督社會黨の泰斗……佛國天主教の僧都デラメンネース氏と相彷彿したると喜ぶ而してデラメンネース氏の羅馬に赴き其皈依門徒彙聞「Les Paroles d'un Croisant」と云へる諷刺的の一書を著したり其散文に於ける愛着熱心ある想像意表快活ある美質を備へたる詩歌を賦し以て治者及び資本家か勞働者と困難な窘迫

する惨況と鳴らしたり而して白隠和尚も亦施行の歌を作て之を市民
お布施し大お世上の喝采と博したり嗚呼東西所ヲ異よし一の鎖國封
建の僻嶋よ生れ一の歐洲繁華の燒點しかも佛國の都に教育せられた
り故お其説きし所は相違ありしと雖ども其主義目的に至りては互お
符節を合するが如くなりしあり傳ふ曰く

師名の惠鶴號の白隠駿州原の人あり幼なきとき僧の地獄の苦患と
説と聞て心大お恐怖し是より出離を求むるの心あり遂よ邑の松蔭
寺お入て出家す然りしより東西よ奔走し頻りお耆徳の門と窺ふ後
信州正受老人よ見えて身心と打失す悟後の修と修して大お宗風と
振ひ籠下ふ十餘員の知識と得たり實よ近世の活僧あり云々明和五
年十二月(今と去ると一百二十三年)寂す壽八十四勅して神機獨好禪
師と諡す

余今テランメンネース氏の難澁の詩歌と未熟乳臭の筆と以て翻譯せ
んより寧ろ白隠和尚施行の歌を讀者お照會するの勝れるを發見せり
然れども此稿の氏か今を去ると一百六七十の昔よ草せしものなれ
バ現世よ迂遠なる所少なからず然れども若し氏をして建設的新日
本よ生れ今日の文運よ生息せしむれば氏の宗教社會黨の門地を構へ
天晴二十世紀の批評家をして大思想家ゲリット、シッカーの榮譽を得べきやも圖るべか
らざるなり

白隠和尚施行歌

今生富貴する人の
今生施しせぬ人の
利口で富貴がなるからば
どんでも富貴するを見よ

前世お蒔かく種もへぞ
後世きいめて貧乏ぞ
どんなる人のを貧う
利口で貧乏するもあひ

此世の前生の種えだは
富貴も大小ある事
貧者も大小ある事

善悪二ツは蒔種の

田島も麥稗まうざれば

麥稗少しまきおけば

まうれば少しの施しも

いそんや施し多きをバ

夫もへ御釋迦も觀音も

佛や菩薩の進あら

さすれば今歳は飢人と

れのく富貴で持寶

未來に此世のさね次第
蒔さね大小あるゆへぞ

非道大小あるゆへそ

盛衰二ツは萌りうる

穀物取らるためしあし

五升や壹斗の實あり

果報の倍く有物ぞ

果報も多しと思ふべし

施しせよとのすいめえ

よしある事ぞと思ふべし

救ふ心とれたこそすべし

あれの有やどたらぬ物

多の田島とゆするとも

少しも田島のゆりらぬど

我子に耳さふ厚ければ

親此のそとでゆくものう

ちから一ッばは施行せよ

我子おゆづりて怨となる

舛や秤やろるばんや

筆で非道とましまふな

死んで三途あ入る事そ

をいきの草木があひしげる

非道の子孫の怨となる

貧者も施しせらるべし

もつ子が持ねばもてぬもの

もつ子のあつばれもつもれぞ

あひ田島もどめて持も有

我子の繁昌いのるなり

慈悲とせずして持金の

人の恨まのかゝるもの

貸しう絲商いそる人の

筆で非道とそる人の

其身の三途あち入る

さどひ草木のさへずとも

れのく富貴とさいわいあ

貧者も施しせぬ人の

富。貴。で。く。ら。す。甲。斐。の。な。じ。
飢。死。ぬ。貧。者。と。見。ぬ。ふ。り。で。

貧者も施しする人よ

神や母とけよ恵まれバ

まうれば祈禱よあるとよ

よくく了簡なきりめて

親の心で子とあもふ

それやど親も思ひをま

驚からずあもれとりとり

親の後生のためよせよ

娘息子をまめくるあ

そのかまりぞと施行せよ

犬。で。も。口。の。そ。き。る。ぞ。や。
く。ら。す。心。の。鬼。神。よ。

神も佛もめぐまたり

天魔外道のちうづうず

是とよくく了簡し

恵施し為たまへよ

あらひ風よもいとひとぞ

親とあもとぬ人との

親ある人も施行して

これぞ眞の孝行よ

あしまぬ寶がたらぬもの

直も我子の祈禱なり

それあましる善事なし

死んで身も付ものない

捨て迷途れたび立ぞ

耳も聞へず目も見へず

えらき冥途入事ぞ

後悔する事限りあし

菩提のさねと植たまへ

露の命といひもそる

つひも死病ああるもあり

くれも頓死をするもあり

あすの我身此葬禮ぞ

いつ迄生る心ぞや

ととひ万貫長者でも

妻も子供も錢金も

めいどの旅立する時の

行さきえらずたどり出

其時くるしと身もつんで

どかく命のあるかざり

命のもろきものあれば

今宵頭痛がえとむめて

朝のらんくわとせし人が

らふの他人の葬禮し

まうればたのまなひ婆婆あ

らふ乞食とそる人の

あゝいぢやい好んでする物か
 この心でもらふ人のあい
 是非なく袖乞する事ぞ
 ねろく不便のおどらぬ
 又末くも相應ふ
 あつく施行し身を入よ
 我日本八百萬

人の喰ひけすてるもの
 前生あまくたねたらぬゆへ
 かゝるありさま見ながらも
 かしらだちとる人とも
 我もくどともくも
 功德と積み此時ぞ
 神の心あかふべし

此の如く我國の古來貧民の事注意したり今該白隱和尚の歌と讀む
 も尙其一斑を窺ふ足らん而して英國の如きも彼の一千八百七十年
 貧民律の實施より貧民のとあひ相應ふ力を用ひたりと知られたり
 其當時調査と遂たりしむ倫動市中のみよて貧人の數凡ろ六千五十七
 人なりし其割合の左の如し

乞食……………三千四百七十二人

孤獨のもの……………三百〇九人

勞役をなさざる悪漢……………四十三人

常職を得ざるもの……………二千三百廿九人

其他の原因より困窮するもの……………六百〇四人

然して僅々十九年を経たる今日よ於て其數十餘萬を以て數ふるよ
 足り之よ對する私立慈善會も亦二百十六箇所の多きよ及べり而して
 慈善會と貧民律の能く此多數の貧民を匡濟するとの出來得べきやを
 疑ひざるよ得ず電燈爛灼として夜景紅なる歐洲屈指の都より椰樹鬱
 叢として行客甚た稀なる野蠻の巢窟よ至るよて所として貧民の慘狀
 を聞かざるいなし社會黨共產黨か慈善の主義よ基き社會組織を一變
 せんとするも亦止むを得ざるの事と云べし而して其救恤の事の如き

も嘗て英國ケンブリッヂ大學の教授マーシャル氏の如きの二大區別を
なして寺院管下の工館内は於て與ふるものと館外は於て與ふるもの
と内救外救と云ひ互に利害のある所を論じたり(氏の著エコノミー、マ
グ、インダストリーを参考せよ)

又彼のオクタビヤ、ヒル嬢の如きの貧人を減少ならしむるより此の如
き方法の必要にして且之を行ふは難からざる所以を解説すると甚だ
至れり且其貧人の家事を改良し以て貧窮を去く本源を防止するの問
題も就て事理を陳辨すると甚明なり又救済に従事する人の爲に左の
數條を陳説せり曰く

家税を納むる如き義務の之を實行せしむると最良とす

金錢又の貨物を施與するの業務を授くるの優れるを加かず

慈愛と教誨とを加へ以て將來に好結果と見ゆべき努力心を鞏固

ならしむるを以て最も扶助の効あるものとす

各人其事業も就ての自己の意見あり故に其意見を遂げしむるとよ
妨碍あるべからず且其意見の良否は徒ら他より目撃したる救貧者
よりの實際其位置に在る所の貧者の自ら之を制斷するの適當なる
を加かざるあり故に救貧者の當る務むべきもの貧者の爲に我よ
り其意見と考定し若くは判斷せんよりの寧ろ其人として思考すべ
きの點に至らしめ且正しく判斷すべき所の精神を振起せしむるよ
如かざるなり

倫動及び其他の都會に居住する所の貧窮人の高等なる歡樂を得
べき道を開達すべき力と發達せしむると要す云々

而して予も亦貧民の救助に成るべく貧民をして自ら助け自ら起き自
ら働く所謂自立の精神を隱起せしむるの法方と考へざるべからずと

思惟するあり徒ら金銭を擲ち貧民をして益々依頼の念を生じ懶惰の習慣を起さしむるものゝ害ありて益なしと云べし世の斯事よ志あるもの以て鑑むべきあり

第四章 同盟罷工

予の既に論したる如く現時慈善會、貧民救恤社、の流行するも係らず貧民の其數を増し鴻儒、アウガスト、コントとして嘆せしめたり。曰く「專制の政体の廢し封建の制度の敗れ民人の立憲の治共和の政の下よ棲息し其自由の益々進暢するの傾向あるも拘らず怪ひかな生産社會よ向つて第二の專制と封建とを引起したり」と

而して現時生産上の有様の如何、資本家と勞力者との相軋して止まざるもの非ずや相敵視睥睨するもの非ずや恰も兩軍相對して城攻めの準備と爲すの如き形狀もの非ずやエドワード、アトキンソン氏の説く所よ曰く「資本家と勞力者の唇齒相寄るものよして決して敵視すべきもの非ず」と此語や經濟上の道理として實に信服すべきものよして尙理學上よ重力の法則あるか如し然れども社會上よ現出し來れ

る實際上の吾人之と保證すると能はず兩者の常は形而上より形而下より論辨は腕力に隱顯出沒……四海風なきは腥氣怒濤腕力鬭争の間は相見ると至る今試む新聞を繕て之を閲讀せよ
 雜報欄内より曰く

……某省出仕の豪家——君は其獵犬ドッグ・イン・テイルの住舎を新築し本日をも以て全く其竣功を告げたり其費額凡そ二萬弗以上なりと
 同欄内を稍降りて

ダビット・ウィルソンなるものい去一日午前八時頃其妻を殺し已れも亦即時自殺せんとし居たるを警官の見認むる所となり夫々其所置を附けたる由なるが右に全く去年以來勞働の主家を失ひ家より六人の小兒を保ち兎角其生計の困難なるより斯くの發狂せしものなりと

貧富の懸隔茲に至て極れりと云べし一は獵犬の住舎を新築するもだも貳萬弗を費し一は其糊口もだも窮して妻子を餓しめ生計の困難を告げて自殺するに至る是即近時歐洲の職工の間は同盟罷工の流行する所以にして若饑ざらんと欲せば是等富豪の人々の酷虐の配下は尾と垂れざるべからず若し之を脱せんか勢ひ糊口も窘迫し妻子老父母を如何せん於是乎勞働者の命や窮せり寧ろ伯夷叔齊の饑は傲ふて節を守て首陽の薇を食するも如かず終は才學ある勞働者が相結んで同盟罷工と稱せる一種斬新の危激を演じ最後の法庭を設立したる所以なるか

抑も其起源を探れば一朝一夕の故も非ず紀元四百九十二年及び三百十一年の頃羅馬は於て實行せり又紀元後一千三百八十一年及び八十四年より以太利のヴェネチアは於て起り續て近年も及び益々熾盛なり今

其一例と擧ぐれば英國よての一千八百七十年より一千八百七十九年
 までは同盟罷工の數の二千三百五十二度として其中一百十四の同盟
 罷工は於て賃銀の損失の五百六拾萬七千八百貳拾五磅よてありき
 米國よてもミチガン雜具師の同盟罷工ありピッスホルガの玻璃吹者
 の同盟罷工ありホツキンバレット礦山の同盟罷工ありクレヅランド鉄
 板延車組合の同盟罷工ありウーレンセット護謨會社勞働人の大同盟罷
 工ありシントルイス町あ於ての馬車會社の破壊あり爲る商家の其業
 と休み老幼の相携へて遠きよ逃れ巡査と一揆人數の間あひ互に死傷
 あり又チハイチ州コウヒラデルピヤよ近きスイス殖民人の罷工よ加
 入せざるう爲る銃殺せらるゝもの多くヨチミンあ於て支那人の同盟
 罷工の黨派の爲めよ一村擧て虚殺せられたりき
 一昨年来國の政友愛耳蘭自治黨員チブレイン氏が報し來りたるプロ

ードストリート報告よの曰く

去年の米國よてのストライキの凶年ありし即ち一昨年アンシヤストの同盟罷工
 の八百七十二回よして之よ關聯せるものは三十四万五千七十三人
 ありしよ昨年の六百七拾九回あ減し關聯者の數も亦二十一万千十
 六人となり又同盟罷工の奏功せしと擧ぐれば昨年の三百六十八
 回あして即ち二割四分の奏功せし割合あ當り昨年の二百五十五回
 よして二割九分の目的を達せる勘定なり而して此同盟罷工の爲め
 よ費せる日數の一昨年の千二十五万三千九百二十一日(年あ改むれ
 ば二万八千〇九十三年餘)昨年の百五十六万二千四百八十日(凡る四
 千二百八十一年)と日數と費すこと斯の如し

同盟罷工の事よ就ての古來理財學者の非難するもの甚多く不正なる
 者として擯斥せられつゝありしなり然れども右よ出したるか如く實

際ハ如斯社會ニ其數を増しつゝあるなり和田垣謙三氏ハ斯道ニ明かなる人なり論ぜしとあり曰く

或る一派の經濟者の論ニ勞力の報酬なる賃銀の高低ハ需給の理ニ據つて定まるもので人力の左右し能ふ所でない且又一國資本中賃銀として拂われ得べき高ハ前以て定つて居る決して濫ニ増減ハ出來ない之を名けて賃銀基本ト云ふ又同盟罷工ハ果して需要供給の理法ト變動し得るか又一國の賃銀基本を増すとカ出來るか決して出來ない同盟罷工ハ人力を以て自然力ニ當るもので例へば黃河の滔々として流れ來るを兩手ト廣げて停止せんと欲するが如し其目的を達し得ざるのみならず却て己ト害するならん又扇子ト揚げて太陽の西ニ没するを止めんとするか如し清盛入道ハいざ知らず尋常の入道ていさうハ行かぬ同盟罷工を爲す者の水流ニ溺れんとす

る愚人ニ非ざれば清盛を學ばんとする痴漢なり

右様などを言つて同盟罷工を斥けます歐羅巴の天保時代の經濟學者の言葉であります併し不思議なることハ日本の學者——明治の青年ども云ふべき學者——にして往々天保老人を學ぶ者多くして右の如き説ト持つて來て頭から同盟罷工をこなす事てあります抑々前の論ハ自由競争を本として立た論で有りますが自由競争ト云ふ四字ハ經濟書ニ於てハ常ニ見る所なれども實際の經濟社會ニ於てハ存外見るとの少いものであります或ハ習慣ニ依り又ハ勞力者の無學ニ依り又ハ法律の爲ニ又ハ人情の爲ニ或ハ交通の不便の爲ニ經濟社會の競争ハありく自由てあゝ其色で前ニ言ふ如く自由競争の結果ある需要供給の理で確乎として動うすべからざる賃銀の高が定まると云ふハ事實上疑ハしき話であります又賃銀基金

の説に至つての今日の己は破れて居ります

同盟罷工の能く時と處し所を得るに必ずしも目的を達し得ぬと云ふ譯の無い前にも申した統計に依るに目的の達した數は(東洋學藝雜誌第四百四號と参考せよ)少なきが一度でも達し得た例はあきば目的を達するより出来るのです只機に乗ずるより出来あつたり負け込たので有ます同盟罷工の決して一概に無益であると云つて踏み潰すとの出来ませぬ同盟罷工の直接の結果の外は間接の結果もあります奴隸の如く自棄自暴して社會の麓に跪き匍つて居つた者も心を一おせば資本家を壓倒すると云ふとを發見するならば勞力者も於て自重の精神自助の精神又互信の精神が奮起して來ます又一方於ては勞力者奴隸の如く輕蔑して居た雇主が此に至つて勞力者を恐れ又尊敬すると云ふとを知つて來ます勞力者

とて決して侮るとい出來ぬ馬鹿みするとい出來ぬと云ふとを覺ります申す迄もなきと乍ら一國の例への富士山の如きもので極頂上の小さくて下の方の廣い楚の方の下等社會——と云ふの矢敬で誰でも同等で有るが先つ下等社會と世間で言つて居るもの——即ち勞力社會で勞力社會が倒れるならば絶頂のとても保つて居りませぬ其通り一國の雲上を聳ゆる人の爲も麓が大事です倨傲として下と見て勞力社會と見て虫の様なもの蠅の様なものとするの惡いことです麓の同盟罷工をやれば富士山の無くなりませぬ箇様な譯であるから同盟罷工の一概に害あるもので無く或る點に於ては社會全國家の爲に利益あるものです

和田垣氏の博學多識なる卓然一箇の見識を有する所予の辨を待たずと雖右の所論を反覆熟讀せば氏の文壇場裡の一勇將を兼ねるも活世

界の偉丈夫なるを知るに足らん氏か文章の平垣明晰なると立論の嚴正跌宕なると共に數多斯道志あるものをして感謝お堪へざらしむ予將に筆を擱んとするるとき郵便脚夫の外國新聞を投して去れり之と披けり電報欄内への掲げて曰く

英國なる無職人等のトラファルガルスクエアに集會し種々過激の演説ありたる後倫敦府知事官舎へ趣けり又曰く警察官と亂民との間より更なる争鬭を惹起せり此争鬭のハイドパークに於て起り亂民の腰掛及び垣根を多く打毀ちたり又曰くヨークシャーに於ては多數の日雇等か盛なる同盟罷工を起せりとの模様あり云々

第五章 器械の發明の文明を益するに足らざ

予以上論したるか如く貧富の懸隔資本家と勞働者との間へ相争鬭して同盟罷工をなすに至りては其軋轢も極れりと云ふべし而して近時専ら用ひらるゝ器械の發明の如何と云ふは或る學者の説の如く

資本の産出力を増加する法方 〔實學上の進歩
機械道具の改良〕

機械道具の改良の資本を増加するものに必用となれども是即勞力者へ裨益するものゝ非ずして器械の勞力者を困難ならしむるものにして資本家と勞力者互に争鬭すると今日の如く甚しきに至らしむるもの一は器械の發明を職として之は是れ由る又貧富の懸隔を今日の如きに至らしめたるも器械の源因多き居ると云はざるを得ず約言せり器械の社會を不平均ならしめ紊亂せしむるの媒介物となりたりき一部人民の尊信するワット、スチブソン諸氏の勞力者を取りて

の三文の價值もなく彼等の爲に社會の所謂貧民の食と失ひ路傍に徘徊するもの其幾何なると増したるやも圖るべからず試み彼の英國と見よ其所有せる蒸氣機關を合算して其作業を計算すれば強健の成男四五千万員の事業を爲すに非ずや是を英國人口外の人口として此人や膏油と石炭と要するのみおして衣食なく疾病おく寒暑を別たす晝夜を論せず極便至利の人員なり實に器械機關の資本家……餘有る人々への便利を與ふるものなまとも所謂宵越の錢を使ふを屑しとせざる吾人労働者も取りての憂慮の種なり厄介物なり職業と失ふの基なり予が第一章も痛論したる貧民の大班に即多くは是れ此器械と云へる魔鬼の爲に追立られたる人間なり予今之と證せんは英國の如き富國に於て貧民の多數なる所以なり常は大廈高樓に住して生計も不自由と感ぜざる資本家の工夫を凝して新奇の器械と買求め資本

を増加し労働者の漸次給料を減せられ孤城落日重圍に陥り迷惑至極の界に呻吟苦行しつつあるなり
 斯の如く吾人四億の人口の外に器械と云へる無形の人口各國の戸籍帳にも過去帳にも掲載せざる變化の人口日々蕃殖しつつあるなり嘗てマルサス氏の人口制限論を唱へたる名家なり氏若し今日も生存し此の如く器械の發明も無形の人口を造出し歐洲諸國に數千万の労働をなし勞力者の職業と妨げつつあるなりと聞かぬ氏に何と評するや吾人實に人口過多マサト、ポブレシヨシの弊に之より甚しき非ざるべしと思惟するなり人口過多なれば漸次其労働の賃銀を下落せしむるの勢も止むべからざる所なり賃銀下落するときの生計も不足を生じ滋養の食物を充分に購求すると能はず子弟を充分に養育すると能はず滋養の物品を食すると能はず子弟を養育すると能はずんば國民の体力元氣を薄弱

萎靡せしめ其邦土の衰頹破滅せざるを得ず

然るも古來世の學者の皆器械の勞力者を益するものなりと思惟し之を論したる例少しとせず昔し希臘も初めて東洋より水車と購入したるとき詩人アンチパロスの詠して曰く

嗚呼勞役者よ粉車と廻りす勞役者よ汝の手と休めよや安眠して夜と過せよ曉と告ぐるの鷄聲も氣と止むるな
ジユピトルの命も依り水神り汝の勞苦と救ふと見よ

今まで寒暑と厭ひす勞働しつゝありしは水車り發明使用せらるゝととあり水神り勞力と爲し汝と助け汝と安樂あらしむるありと詩人の歌ひしおも係らず是勞働者の水車の事業と追出さきて是迄此業も從事したるもの器械も其業務と剝奪せらるゝ其業を轉せざるべからず然らずんば妻子を養ふ由なく愈々活路も迷ふに至り曩も考へし理

論との雲泥の結果を見るに至る然るも近世の歐洲人も此詩人の言を信じて異口同音も同じ望みを器械も屬したりしは豈圖んや前世紀の終りワットウ蒸氣機關を發明しアークライトウ紡績器械を發明して非常な製造方な便益を與へ資本家の富み歐洲各國の繁へたるも勞働者の獨り饑餓も叫んで其安樂と共なすること能はざるの不幸不仕合せの境遇も瀕せり而して「此器械の發明も就ては人間の苦う去らう」と考へしは案も相違して「實際大に失望しました」と島田三郎氏として嘆せしめたりき

近くは我國も於て鐵道の布設是なり鐵道一たび通じて運搬の便益を與へたるもの相違あるまじけきとも彼の東海道箱根の如き數千の人民……旅籠屋人力車渡世の輩を始めとし餓死せんとするもの夥しうりき是事も就き政府の之を打棄て置くべからずと渡邊大藏次官も嘗

て公言せしむの非ずや而して文明の利益を應用する鐵道の株主の如何なる人種より成立するや多くの驕華者流の月も花も生涯を委ね暮し得べき富豪紳士の徒よして却て困難を告ぐるの斯の如き貧民のみ其他京坂間の鐵道名古屋よ建設せらるて江州水口邊よての家々門口よ諸事儉約の札を貼出したるを見る總て鈴鹿山邊なる舊街道の寂寞たるの見るよ忍びざるものあり予の此地と通行する毎よ未だ嘗て落涙せざるとあらざるなり故ふ予の勞力者所謂下等者……多數の世界と目的として論ずれば斷して器械の文明を益するよ足らず寧ろ之を紊亂せしむるの利器なりと云ひざるを得ず歐洲の社會黨共產黨か社會の組織を一變せんとするも宜なりと云ふべし

第六章

クウペレーション

予か前章論したるか如く資本家と勞働者との争鬪相打撃するといふ今世益々其甚しきを告げ各國か仲裁法を設けて百方和解を講ずるも暫く休戦ツルースの時あるのみ決して平和ピースの期あらず况んや兩者の間穩和敬重互に結合一致するを見るところを得んや然れども之を調和するの雇者よ執りても又被雇者よ採りても大よ便益を與ふるとなるべし於是協力會社即クウペレーションなるものと創立し其戰三十年間の長きお互らざ大戦十二皇族の戰没するもの八十二人の大亂を醸さず四海平晏よ資本と云へる白薔薇を飾りたるヨーロッパ家の可憐の小女の勞力と云へる赤薔薇を纏へる強猛ある少年よ嫁し鴛鴦の契同穴の喜と共よし春戀綢繆相舍つると能ひざらんとす又奇なりと云ふべし抑もクウペレーションと云語の協力と云意義と有し數多の勞働者を

團結せしめ人生の幸福を享けしめんとするものあして天下一日も是なきときい平安なる能はず社會の秩序之よ由て以て鞏固あり之なきときい寺院州郡社會産業共々全きと得ざるものあして近年勞働者の大半の之よ傾き來り産業の前途も此方向よ駈け來るものゝ如し而してクウペレ^レイ^シヨ^ンある語を理財上よ適應するときい富の分配及び生産の勞働の協力と云ふ意義よして之を實行し初めたるい資本家製造家哲學家として一世よ知られたる英國のロバート、チーエン氏よして一千八百二十一年初めて理財家^{エコノミスト}と云へる新聞を發行し英國に其種子を蒔きたり是より先きコンチールの鉛山の工夫及び英國捕鯨組米國支那商會及び地中海希臘商業航海者の皆共同營業を用ひたりしか産業文學上よ先鞭を看けたるものい實あ右チーエン氏の方あてありき氏のスコットランド國ニウ、ラナーク及び亞米利加ニウ、ハーモ

ニ^イよ於てクウペレ^レイ^シヨ^ンの龜艦を組織し世界の人目を驚し其幸福を進歩せしめたり氏の又其主義乃私立學校を建設し口よ極めて勞働時間の短縮を鳴らし製造所規則改正と論し二十有餘年の間一日の如く幾多の困難辛苦を嘗めたり其初め一千八百二十九年英國マンチエスター、のサルホールドと云へる所あ於て僅々二十五人乃勞働者の夜學校を設け其校舍代ふるあ二小室と以てせり是即クウペレ^レイ^シヨ^ンの翹首なり翌年あ至り時期あ投して其數と増すこと夥しく新よ一千人を納るゝあ足るべき講堂を新築し降て同三十五年あ又た二千有餘名を納るべき家屋を増築し其聲譽一時よ燦爛たり其校舍乃組織を一覽せんとして來るもの陸續踵を接したり終あ有名ある勞働者ロチデル氏も亦其來伴者の一人あして入會を申込みけり然るあ一千八百四十四年ロチデル氏の一乃方案と廻らしフランネル

織匠乃労働人二十八人乃傭功と結合し一人お付一磅宛を醸集して二十八磅を得たり是を以て小麦大燕麦乃俵砂糖バターの樽詰等を求めて労働者が資本家を兼ね會員の使用する物品を安價お賣捌く等の目的を以て古來資本家と勞力者との軋轢を拒がんと企てたり其後數多の理財學者か贊賞したる一機軸を發見せり二十年の後新中央店と云へるものを建て中あひ四箇の商店と新聞縦覽所及び書籍館をも設けて其株主員の四千七百四十七人となり其資本合計六萬貳千百五磅の多額お騰り年々の賣揚げ高ひ拾七萬四千九百三拾七磅おして其利益貳萬貳千七百拾七磅おなれり

一千八百八十三年お其會社の忽ち増加して一千三百〇四箇の數お騰り會員の六十八万〇百六十五人となり同六十二年より八十三年迄の總賣揚げ高ひ三億〇三百三拾貳萬六千〇貳拾四磅の多きお及び其利

潤貳千四百〇八萬四千百拾三磅お有し一千八百八十三年お至りてひ四百萬磅の資本を有し其潤益の中より教育費のみお支出する高壹萬四千圓お騰れりと云ふ而して此主義お由りて生し來りたる會社の英國蘇國及びウエールスを統計して三十四ヶ所の多お及び歐洲大陸お於ても其結果の著るしく影響し日耳曼お於ては労働者の銀行と起し農業商業の共同社と設け佛國お於ては重お巴黎お盛大を極め七十有餘のクウペーション社と設け其他埃地利匈牧利、噠國、瑞典、瑞西、以太利、和蘭、埃太羅利亞、等の各國お傳播せり

第七章 歐洲社會黨ノ主義ノ梗概

社會黨の歐洲に出現して今の社會の組織に倣ヒ之と破壊せんとするもの其數を知らず社會黨、虛無黨、共產黨、借金黨、破壞黨、變亂黨、ダイナマイト黨等其最たるものにして今其主義の梗概を擧ぐれば左の如し抑も人の天賦自然に智愚の差あり教育に由て賢不肖の別と生じ或は天然の幸不幸あり或は門閥の有無あり或は万一の僥倖を得るものあり得ざるものありて其賢にして智あるもの及僥倖を得たるもの等、愚にして不肖あるもの或は天災に罹りたるもの等の企及ぶべからざる富貴幸福の法律習慣之を保護するを以て其人隨意に之と棄つるゝ非ずんば永久之を失ふの患あるとあし富貴なるものゝ益と富貴にして貧賤なるものゝ容易に其苦境を脱出すると能はず今此苦界に呻吟する者及び之と同情相憐むもの此弊害を矯正せんと欲するも他より

策あるも非ず遂に私有權を廢し國內總ての資財と政府の手を委任し万人皆一樣に政府の制御を受けて其下を棲息せんと欲す是れ則ち今日の社會黨なり

其言ふ曰く人よ私有權あるか爲よ野心此を生じ野心あるか故に盜賊出て人を欺くもの人を殺すもの常は絶へず私有權豈に廢せざるべけんや然れども論者或は之を駁して若し社會黨をして志を得て私有權廢止の事を行はしめり人々自ら勞して以て力よ食むの念を殺くべしと云ものありと雖ども畢竟するも世に懶惰なるものを生ずるの勞と酬と相階はずして貧富苦樂の全く別天地あるか爲めのみ試み現今社會の有様を見よ一擧手一投足の勞をも取らずして富貴快樂を肆はするの人々の傍にありて日夜唯難澁し勞苦の間を狂奔して尙口を糊すると能はざる人を見るの不公平あるも非ずや是れ皆現今社會の組

織其宜きを得ざるも坐するのみ凡そ人の勞働するや日夜快樂遊興と事とする人の傍にありて之を爲せりころ苦痛を感ずるとなれども万人皆等しく勞せり其勞に却て快樂ならんのみ且又今日の如く世に遊民坐食の徒多きか故に終日勞して尙其口を糊すると能はずと雖ども若し天下の人各々其手足を勞するに至らば蓋し日は五六時間を勞して衣食の餘りあるべしと又曰く今の世に人々皆別家家を去て其生活を異にし其經濟を異にするか故に勞費共々甚だ多けれ共今若し廣大なる家屋と建築し衆多の家屬之に雜居し同一の生活と爲し其經濟を共ませり費用と勞力と省く事莫大なるべしと又社會黨の万民平等を望むものあれば國內の子弟を教育する爲め公共の金を以て公共の學校を立て總ての子弟を入學せしめ公共の費を以て之を維持し政府之を監督するものとす又金錢に外國と貿易する時の外自國に於

てい之を用ふる所なし何んとなれば社會黨の説は從へん人民の皆政府の製造所ふ於て勞し勞して生したる物品の政府之を支配し自身の日常生活に必用なる衣食住の三者の政府之を給與し一般の人民の毫も物を賣買するの要と欠けばなり蓋し社會黨の世は現れたるの今日お始まりたるは非ず其來るや實は久し而して之を主張するの主義小異なきは非ずと雖ども其有名にして且勢力ある人々の説を列記して之を通覽せし其大要を知ると難きは非ずと信す因て左に其一二を記さん

マブリー氏曰く吾人か今茲は大きな地主及び小作の有様の不同を見るの不幸は陥りたる以來貪慾野心驕傲猜疑嫉妬の情常は吾人の胸中を絶ゆることなく以て吾人を傷け政府を攻撃し以て國民を壓制せしむ今共產の社會を創立せし有形の同等を確立し而して是を基礎として

人間の安寧幸福を求むるは何の勞か之あらん

モレリー氏も亦曰く第一如何なる人と雖も國中はある物を所有すべからず但し其日常必要なるもの此限は非ず第二人の各々社會共有の費を以て養はれ之は因て使用さるべき公共の者たるべし第三各人皆其強弱賢愚老幼を應じて公共の利益を貢助せざるべからず又貯蓄を止めんか爲め賣買を禁せざるべからず二十歳より二十五歳に至るまでの人の必ず土地を耕耘すべし四十歳に至て獨身たるべからず普通教育を爲さんう爲は廣大なる公共の學校を立て五歳以上の子弟を入學せしむべし又其刑法中は曰く如何なる種類の人よりも苟も彼の惡むべき私有權を立てんと欲するものあつば狂人或は人道の公敵として終身の禁錮は處すべしと

シモン氏曰く總て社會の最貧者が内外の有様を改良するは盡力せざ

る可らず而して此目的を達するも最も適する様社會を組織せざるべからず又其綱領は曰く其才能に應じて各人其與へ其勞に應じて其才能に與べしと又シモン派の人々婦人の地位に付て曰く耶蘇教の婦人を奴隸の有様より救ひ出せしと雖も未だ十分なりと云ふべからず吾人の婦人をして十全の自由を得せしめ男子と同等の地位に立たしめんと欲するものなり然れども之か爲す彼の神聖なる一婦一夫の婚姻法と破るとなきを要す

フリーリヤ氏曰く生産物の十二分の五の勤勞は與ふべし十二分の三の才能は與ふべし十二分の四の資本は與ふべし

ボウナロッテイ氏曰く總て人の財産は其死するの日之と政府の手を委し社會の共有とあすべし政府は各人其必要的のものを給すべし六十歳未滿の人の總て日野耕耘若くは他の有用ある事業に從て人民の

階級を分け而して各地方の事業に各階級の職人等相集りて選舉したる長官の監督の下にあるべし夫等の長官は土地若くは倉庫中を給與すべし總ての器械は政府之を備ふべし運送の事は長官の指揮の下にあるべし租税は總て物品にて納むべし金銀の毫も之を鑄造するところあるべし若し物品にて賣買するも金銀の入り來るとあれば之を外國貿易に用ふべし長官は若し必要と認むるときは一地方より他の地方に職人を移すを得べし而して若し懶惰なるものあらば鞭撻して工事を爲さしむるを得べし

トーマス、カンペネラ氏の説は曰く吾人の各々其家屋妻子を有つか故に吾人の中は私有の精神止まるのみ是に於て私慾隨て來るべし何んとなれば則ち人各々己れか子孫として榮利富貴を得せしめ巨万の身代を相續せしめんと欲するか故に其人若し富強なれば其富強を以て

他人を凌ぎ以て公共の資財と奪んとし若し又貧弱なれば貧慾妬詐虚飾と事とするに至るは明なればなり

デウホント氏曰く吾人の顛覆せんと欲するものゝ壓制家其人は非ずして壓制其物あり吾人の最早政府を要せず何となれば政府の租税を以て吾人と壓制すればなり吾人の最早兵士を要せず何となれば兵の吾人を屠り吾人を虐殺するものなればあり吾人の最早宗教を要せず何となれば宗教の吾人が理解力と殺くものなればあり

右は列記したるか如く社會黨の中にも大同小異なきも非ず或は寛なるものあり或は嚴なるものありデウホントの如きカンペネラの如きは大に過激の説と主張し妻子家属をも共有せし政府宗教をも廢業せんと欲すと雖も其他の諸氏の専ら其説を實際に行はれしめんとを欲して然るもや其説激烈ならずして眞の社會黨と名くべからざるが

如し蓋し社會黨の本色とする所の皆は財産遺物を廢し万般の事物を共有するのみならず家屋妻子も一個人の有する所は非ずして社會一般に屬すべきものとするはあり之を要するは社會の主義に従へり政府の權力は古來未開の強大を致し社會万般の事物政府の干渉すべからざるものなり人民の更に一物と有せず自ら其身を進退すると能はず恰も群羊の其飼主に於けるか如く又其奴隸の主人に於けるか如し又之を概評して其目的の完全ある同等を得るはありて此目的を達する方便として人口をして十分は其政府に服従せしむるなりと云へり當らざるも遠きも非るべしと信ず

第八章 社會黨用語の解釋

左に掲ぐる所の解釋ハ西曆一千八百八十四年米國新育市の刊行に
係るスタート、ウエザー氏及ヒロバート、ウイエルソン兩氏の著述の「社
會黨」中より纂譯せしものあり

解釋

社會主義の世に公布するに隨ひ之に關する數多の新語を用ひ來り或
ハ通常の言語を以て特異の意義を表示するに至れり故に讀者として
明瞭な文意と理解せしめんを爲め爰に其解釋を省略すべからざる
の必要と感ずると以て先づ卷首に於て其字義を説明せんとす

社會

近來の開化社會ハ之を分別して世襲、素養、及び卑賤の三者となすこと
左の如し

第一、世襲者の即ち歐羅巴に於ては門閥の家も生れたるもの又亞米利加に於ては祖先より譲與せられたる財産を以て生活するものとして一よ之を惰民と云ふ

第二、素養者の總べて貢賦利益或は利子に頼りて生計を營むものとして之を畧言せば其眷屬及黨類を擧て共々傭工の労働をささいる者一よ之を盜賊と云ふ

第三、卑賤者の天下の力役人にして自ら手足を勞して職業に從事し労働の報酬として單に其價値の一部分所謂賃銀を得る者一よ之を掠奪と蒙むる奴隸と云ふ

從來卑賤者ある文字に於ては祖先より財産を譲與せられたる囊中無一物の輩ありとの意義を含蓄するものとす

之を必竟するは前二者即ち世襲素養の兩者が現世に於ては勢力を占

有したるか如く所謂産業の競争法を設けて其勝利を得優勝劣敗終に能く其地位を維持し演説も著述も政治も皆此派の人々か自己の法門を説き我田よ水を挽くも異ならずして力役者の無學にして教育なきの故を以て公共の事業も關せず別天地に生息して奴隸の苦界に呻吟しつゝあるあり

社會主義

社會主義とい何そや恐るべきものも非ず嫌ふべきものも非ず碩學ウエプスター氏の之を評して曰く「政府の最善良ある公正ある組織ありと讀者若し虚心平氣に之を研究せば胸中自ら釋然たらざるものあらざるを得ず抑も社會主義とい人間社會の形勢に適用せる公權を考究するの科學にして其根基とする所大趣意たるべき所の凡そ人たるものも労働すべく且つ其労働に向て充分の價値を得べき權利を確然賦

與せずんばある可からずと云ふより

共產主義

世界の慣習よりて共產主義及び社會主義の兩語の同一の意義を含蓄する者と誤認せらるゝに至れるの實は嘆すべき事と云ふべし假令如此一般に誤認せらるゝと雖ども實用の點に於ては此兩語の決して其意義を混同すべからざるなりモリッヤ氏の曰く「共產黨の其兩親の危儉ある獄中より理財學者の爲に救ひ出されたる社會黨の嬰兒なり」と

共產主義の新社會を改選するの計畫をして總て一家内ノ生計を基因し其結社の人員より其産出し得る所のものを收納し而して彼等が日用消費するに必要な物品を貸與するの法則を制定せしことを促かすものなり

單獨主義

單獨主義(マンチエスタ)學派と普通知られたるもの(社會交誼上)に於て一種特異ある規律を制定せんと欲し無政府主義と採るものあり之と再言すれは世の所謂門閥的有力者を排除して普通平民の人權を平等ならしめ其人々の隨意に放任して貯蓄せしめんとするものあり

(付註)社會主義を基因せる單獨主義なるもの、全く別達の事件なれば決して前者と混同すべからず

社會黨の政略

社會主義と男女の權理及び宗教上の關する疑問の悉く別異のものなれは互に相混同すべからず社會黨と云へるは單に其社會主義を目的とし其眞理を論究するものなれども單に第一者に限らずして第二者

第三者も論及し關係を得我進取の行路を取らんか爲りあす故も吾人の確信す若し社會の新組織あして一度其成功を奏するに至らば總て其他のものも相尋て容易且つ自然あ改頁せらるゝあ至るべきなり

理財上の用語

財本の勤勞の所得より總て其必須の物品を供給し去れる後猶殘し剩れるもの餘裕なり是れ勤勞と貯蓄したる者よして即ち清廉に得たる所の財産あり

蓄積せる利益の生産者よ向つて拂入れざる所の賃銀又の消費者の必需品あ付て押取したる貢税よして商業世界よ於ての一般も財本と誤認せらるゝものなり

著者の文辭の意義を以て讀者の心と紛雜せしむるを欲せざるよ依り書中あり財本と通常の言語として用ひたり故も財本の一語の此

書中よ於けるも又一般の文字上あ於けるも實も蓄積せる利益なりとの意義と表示するものと知るべし

財産との貯蓄せられたる勤勞即ち清廉あ得たるものなれば清淨潔白ありと謂ふべきなり

利益との之を蓄積せるもの(財産財本と誤認せられ)市場相奪の結果あして零言せの贓物なりと稱すべし

地代との強者の掠奪なり

利子との奴隸の要品中より主家の押收せる不道不正の貢税あり

進化及び革命

社會黨の進化及び革命の吾人社會の組織よ依て最も必用なる利益ある方法あるとを辨論するものあり

進化 Evolution の 語 e, out; volvo, to roll. 外よ旋ると云義あり即敬

育は由りて自然に人間進歩の下方より上位に及ぶ有様の道行なり
 革命 Revolution とは語に re, back; volvo, to roll or unfold. 後を旋ると云義
 として社會を急激の不意の變更を來すを云なり
 之を必竟するは進化及び革命と云へる語の兩者共は社會の文明を進
 む或る一手段を云ふなり其手段や法方や共は等しく是れ天然に由る
 ものにして一種の進化を生じ可憐の梅蕾の霜雪を凌ぎ社會を改進の
 美花を結ばしめんとするものにして其間地震颯旋の患能く霄壤の汚
 物を掃除して全く吾人をして歡樂無上のイーデンの花園に逍遙せし
 めんとするものなり

第九章 近世社會黨の主義

何とか社會黨と云ふ其黨派の禁制せられ盡くべきか或は前途の日と
 追て繁昌すべきかの社會上の一問題として今之を觀察評論せし社會
 黨あるもの如何あるものあるや其道理の只は人心を感しし治平を
 妨げ罪惡を増加し怠惰驕奢を奨励し放逸の性質貧困の苦を求めしむ
 る商舖の如く何れの地何れの國を問はず其道理や雲雨月明を覆ふて
 人の之と敵くものなく顧慮するもの少く會ふ之あるも世人目するも
 叛賊兇徒の汚名を以てし西比利亞の鬼とならしむるもの往々皆然り
 然れども今翻て之を考察すれば人をして賢明ならしめ正直ならしめ
 勤勉ならしめ善良ならしめ、權衡を失せるものとして平等均一を
 らしめ人間の基本を遙か下落したるも救ひ出し吾人の嫌ふべき戦争
 を廢し平和ならしめ凡て自由平等親睦の如何にして社會を實行すべ

きか其方法組織目的と研究するものありとせし吾人の光輝ある經典として賞賛喝采せざるを得ず

社會黨の勞力者か賃金即給料と稱する組織を全廢して生産及分配の協力組合と創設せんと欲するものあり

社會黨の一事一業を同様な労働し得るもの、其一箇人の辨償すべき負債の之を共同にし又教育運搬通信の如き苟も公共の利益を補益するもの、勿論廢疾不具のもの、保護救助すべきもの、あして是等元より仁慈主義を由らずして社會か國民に償ふべき負債なりとす

社會黨の現世の教育法を廢して各人の子弟として同一に教育するの組織を創めんとす其子弟の漸次進歩して其才能辨別の識を備ふると待ち初めて己れか欲する所の事業を選ばしめ其器械師、技術家、學者、商家、其職と選ばずして其自由を放任すべし

社會黨の自由平等博愛同仁の主義を基き學理上公益光彩ある實理ある組合即ち自由協力會社を創設せんと欲するものなり

社會黨の數多労働人を使用し成るべく労働の時間を短縮せしめんとするものなり

社會黨の労働なるもの、高貴ある健康なるべき名譽ある職業なることを證明し獎勵し悲むべき賤むべき奴隸の苦業を非ざるとを説明するものなり

社會黨の器械の世界の事業を起さず文明を裨益せずと云ふ雖普通人民をして成るべく丈け平等を公平な器械を使用せしめんとするものなり吾人の労働者をして人間社會の生命ある肉体ある器械たらしめ富者……生計に餘裕あるものをして適意に其給料を左右せしめんとするに忍びざるものあり

社會黨の富の天然の原理及び本質の普通人民の正義公道より保
存せられ進歩せらるゝものなりと云ふあり

社會黨の土地の耕作の悉く其耕す者の專有たらしめ土地の公共の財
産たらしめ改良の各箇人の隨意を委せ政府の其耕すべき土地を總轄
して器械の改良利益の多寡を計算し勵獎し鼓舞し國民最多の幸福を
得せしめんとするものなり

社會黨の人間の權利を確認するものにして人間の權利を確認するの
人間生涯を歡樂と終らしむるあり人間の生涯を歡樂と終らしむる
ものなり成るべき丈け生涯を愉快と洒落と爽活と暮さしめんと欲する
ものなり即ち數多の國民か由て以て進歩する所以の技術或は天然の
因り以て全く平民政治を組織せんとするものにして食物教育衣服家
屋其他奢侈品必用物共均一に資給し不平等不平等なからしめんとする

ものなり

社會黨の

攻撃

撃し破壊し消滅し盡さんとするものとして十九世紀の今日よ於ての
最早船頭よ使用したる破浪形を欲せず人爵の等級……名譽の吾人之
を屑とせざるなり

社會黨の一人の時間と業務の他人の時間と業務とか互に均一にして
衆目の見る所公平の判定に従ひ一様の時間と同様の腕前を以て勞働
せる報酬の同一を資辨せしめんと欲するものにして情實電信線故採
擢法と排撃せんとす

社會黨の相互の利益便法に従ひ世界の人類及國別を廢して慘憺たる
嫌惡すべき富と最多く消費する戦争を廢せんとするものあり

二及ひ資本家の戦闘及び不和を生じ戦闘及不和の國民をして分離せしめ苦痛ならしむ分離及苦痛の數多の改革進歩の傾向事業の發達を害するものなり

社會黨の其原因と探究して之を防禦すると以て貧困乞丐者の根を絶たしめんとす元來貧困の間接に直接に凡ての罪惡汚穢の原因となり其媒介たらざるのなし而して若し貧困者除去するを得ば實は百般の罪過の之と共に消滅するなるべし彼の鼠^{ライス}水蛭^{スチス}蝙蝠^{バット}汚物を食する所の惡蟲……兵士羅卒探偵僧侶説法者裁判官庸醫の痕跡を絶つべし社會黨の金錢の労働に由りて貯蓄したる結果にして社會の利益即自身の富を得べきものとす

故に労働せし人の金錢を有するを得べく金錢を有するもの労働せしものと知るべし若必用の労働をなさざれば金錢を有せざるの勿

論食物も亦欠乏せざるを得ず然るよ之を反して労働せず或は労働して得たる資給に超過する金錢を有するもの徴査して之を剝奪せざるべからず故に社會黨の組織は由りては一箇人上非常の富者及貧困者を生ぜざるべし人民の其大同團體に於て國民即ち共同の餘裕……富と増進し管轄するを得べし

社會黨の婦人の自由を完全せしめんとし婦女子の業務及最も憐むべき貴むべき事情あるとを説明し社會上道德智識共は男子と其權利を均一ならしめざると得ずとす即ち教育と熟練と智識が宜く欠乏せざる以上の同様の時間と業務の男子と其報酬を均一とせんとするものなり

第十章 社會黨の萌芽并沿革

予が前章に論じたる如く社會黨とい英語に所謂ソシアリズムとし
て其主義目的とする所の現今の社會を整頓均一ならしめ數多塗炭の
蒼生を死地より救ひ出し生計の度を高尚ならしめんとするの外ならず
彼の共產黨コンミニズム虚無黨ニヒリスムとい自ら其意義を異おせるものなりと云はざるを
得ず

社會黨の一箇人一會社の私利私益を營むもの非ずして妻子を捨て
一身を擲ち資財を棄てて以て州郡の爲め一國の爲め世界の労働者の爲
め徳義上より道理上より陽面的反面的常お争て止まざるものなり而
して其原因を尋究すれば劣等のものをして其地位を進ましめ貧人を
して饑渴を免れしめんか爲め特にお人爵の弊教育の差等資本の多寡等
の數者より及ぼせる害惡を匡濟せんか爲めあるべしと雖も古來數多

の星霜を経て現今歐米諸洲に傳播せる社會黨に至ては管み勞働者の
 權利を回復し資本家の壓制を除かんとする防禦策……雇者なる城中
 を攻撃して久しく宇宙に鬱結したる愁怨の旗鼓を鳴らして彼等をして
 面縛降を納れしめんと痛を忍び戈を荷ひ理財學上は古戰場を推度
 尋究してフーリヤ、チーエン諸子を將とし凱歌の時を待ちつゝあるな
 り然れども社會黨は此の如く盛大に強勢を論難するも係らず法律
 上一箇人の所有權の尙未だ廢せられず富者の富み貧者の貧みして極
 樂地獄人界を差別し無端吾人をして何れの土地を問はず一箇人特有
 の權利の増進するに從ひ漸次壓制の傾向を生ずるものにして共產主
 義の由て以て盛なりと嘆せしむ“Wherever the power of individual proprietors
 became oppressive, communistic doctrines usually arose.”

是即ち獨り近世に止らず希臘古代の社會黨が宇内に種子を蒔き出せ

し原因といなれり彼のカルセドンのハリリスの如きは財産平均の法
 律を造り國を擧て貧富の差なからしめんとせり氏の説は由れは富者
 の社會に成立するに之を嫌ふべからざれども人をして結婚せしむる
 ときの自然優者劣者と生ずるか故に夫婦の約をなすことを禁せざる
 べからず人の同等の教育を受けて婦妻を共有せざるべからずと云へ
 りプラトニー氏の説は社會の三箇の性質より成立すと云へり第一治
 者第二被治者第三兵士として各州に其人民に向て事業の配當階級
 の如何を定めざるべからず土地の公衆の所有に屬し菓物の即ち人民
 の共有に販すべし女子も亦奴隸と同じく普通の所有たるべし而して
 初めて社會黨が胚胎するや多少宗教上の徳義心より萌芽せしものあ
 りと云はざるを得ず今其一二例を枚擧すれば紀元前二世紀の頃死海
 の西岸に住居したるエッセニスと知られたる猶太教派の人々か説

法及び信神の執念ありたるも係らず彼等が財産の共有に屬し妻子も亦共有に付したり又古代の基督教派なるかのボクラチャン人の六世紀の中頃迄の妻子財産を共有したり又中古歐洲寺院の組織を見れば概ね共有財産の制度を用ひたり又十一世紀の頃なりき女子矯風社の創設せられたるとありき其目的とする所の尼院を設るゝ非ずして其始めの病者或は貧困の女子を救ふゝありて其家屋を同一ゝし寢食を平等ゝし食房勞働室をも同くし極めて親密の關係を其間ゝ結べり是即有名なるネザラランド社會黨の萌芽なり降て一千三百七十八年ネザラランド地方に於てレガード、グルート氏の述べたる平等生計の兄弟及び掛員に記するか如きの數種社會主義を其間ゝ抱合せり其會員の概ね僧侶にして適宜の勞働を爲し或は教授するものあり或は説法するものあり常に貧富の平等ならざると嘆慨せり其勢力を加ふるゝ

從ひ終りの法律に觸れて政府の禁ずる所となれり彼の妻子と共同にして常に裸体にして逍遙せし所謂アマミストといは是事なりき然るゝ此解散の却て社會黨の勢力を益々熾ならしめ延て遠く日耳曼に波及し僧侶婦女子に留まらずして新約聖書を基き宗教改革を名として道德を挽回し社會の改良を企圖し奴隸の苦痛を脱し壓制の羈藩を免かれんとする政治主義といはれり是時ゝ當り彼の有名なるストイチ及びモンザの徒交々輩出して社會の平等を望みたるの例少しとせず其徒弟たるものも亦皆同等の主義を抱き富者の權力次第に旺盛に及び所有權の人權を害するを唱道し其云ふ所の理論として實地を適應し日耳曼を擧て道德上の一結社と結ばしめたり願ふゝ近年益々其社會黨派の盛と致せし其來ると甚た古く其道理を説破したるものゝ蓋し今日に基因したるゝ非ずして遠くストイチモンザの徒が主張したる

ときふ濫觴したるものなりと云いざるを得ず

又此頃よ於て著名の社會黨書を出版し共產主義の主意を稱揚したるもの少しとせす其中隨一のものとも覺しきのサートーマス、モア氏か無何有郷と云へる書よして完全無欠の理想政府を建設し民生の安樂幸福を得せしめんとせる物語なり此書西曆一千五百十六年ローベロン州お於て羅典を以て發見せしり其後英佛和蘭伊太利等の各國よ翻譯せられたる奇代の一著述なり其後一千六百二十三年シビタスソリスと云へる書を著せり其大意を擧ぐれば政府の人民よ向て其義務を確定し人民の勞動時間の四時間とし其餘の之を教育の時間よ充て究理哲學及び其他の科學を教ふべしと此外エッセー、チン、プロゼクト、ノウ、アトラス、マセアナ、の如き皆同主義を以て生れ來りたる著書なり就中マセアナの立論確達條理明白ふして古來共和政治を論したるもの、

中此書よ敵するもの甚た稀なりと或史家の評せり

其後勞動者の結合を主張し爲ふ世人の眼を醒したるもの一千六百九十六年産業大學と云へるジョン、ペラ氏の著述なり其大意を擧ぐれば労働よ由りて報ひ來れる一切の利潤の悉く主任員より之を管轄し普く之と其教員よ分配すべし然れども病者不具者の業お耐へざるもの厭く迄も共同よ之と擁護し決して残酷の所置おらしめず兒女の教育の懈怠すべからず鰥寡孤獨の饑餓よ迫るもの相當の補を爲すべき義務あり云々

第十一章 米國の社會黨

北米合衆國に於ては社會黨の各宗の教理を基て設けたる共同會社の
 凡そ七十有餘あり即一千七百八十年北部ノ州に創設せられたるもの
 のセーカスの會社にして西部の州に殆んど三十年の後ありき其他ラ
 ピナス社の一千八百〇五年グリース社の一千八百十七年エベン、エサ
 或ハアマナ、ベセル社の一千八百四十四年チネーダ社の一千八百四十
 八年イカリヤン社の一千八百四十九年アウロチ社ハ同五十二年のと
 なりき皆何れも利潤を平等ニ分配し貧富を平均せんとする所謂クウ
 ベレーションの組織なり近來の産業（リッペレンスチンダストリー、パトロニス、ラフ、ハスバンドリー、ナイト、ラフ、レギア）の王、農業の扶助、労働の勇
 士など云へる社のテキサス、マスタチウセツト、カリホルニヤ諸州に普く
 之を概算すると能はざるよ及べり

第十一章 佛國社會黨員の畧傳

バポッフ氏

カベット氏

センシモン氏

フリリヤ氏

フランク氏

プローホン氏

ジュルシモン氏

フランシス、ノール、バポッフ氏

佛國よ於て社會黨の種子を蒔きたるハバポッフ氏及びカベット二氏なり嘗て佛國革命の悲劇を演し死屍の山、修羅の巷を築きたるも亦二氏の煽動多きよ居る而してフランシス、ノール、バポッフ氏ハ一千七百六十四年エーゾン州のセンクインチンと云へる都邑に生る其父ハオーネトリヤ鎮臺の小佐よして幼時家庭の教育を力を用ひ特ニ算術の科に注意したり然るハバポッフ氏ハ僅カ十三歳なりしとき其父ハ黃泉の客

となりたり是より氏の學事を捨て、種々の艱難を嘗め土地検査官となり數年其業務に従事したりしが終つて州の管轄者も選拔せられたれども氏が大度の志些事を屑とせず幾もなく偽造の發覺するも連累して氏の二十ヶ年の重禁錮を申し渡され終つて巴黎も逃れ革命も加盟することなれり此際マブリー氏の所説を慕ひ希臘羅馬の古典を繙き社會黨の實利を研究するも餘念なかりき

氏の「ト、ヒュン、ゾ、ア、ゼ、ビ、ゾ、ル人民の講壇」と題する社會黨の雜誌を發刊し其親友イ、コ、ル、スローチ諸氏と謀り平均組と稱せる一結社を結び山嶽黨及ジャコピン社と相通し佛國の政府を轉覆し政体を改良するを以て目的とし曰く各人の同等の權利を有する者なるか故に財産地位の共び平等ならざるを得ず土地及び會社の私有せしむべからず各人の同等の教育を受けざるべからず政府の職分の勞働の分配を能くするもあり社會平等の

販賣店を設立して産物及び一般各人の需用品を資供し同社も於て食事を共同にすべしと而して此派の人々に限りては結婚及び宗教上の關係に敢て之を口よせず是其當時佛國の内地の四分五裂して騷擾麻の如く其執る所の主義自ら政治上のみ傾きしも宜なりと云ふべし其結社の漸次旺盛を極め一千七百九十六年四月も於ては其數凡そ一萬七千人の熱心愛國者を團結し社會主義を貫徹するか爲め政治主務者を脅喝せんと欲し日夜隊をなして三々伍々市中を徘徊せり殊も其主唱者の一人なるデクシヨネア、デス、アセンスの著者サルベーン、マール、シャル氏の如きは平均組の激文を草して市中も散布し人民をして此社の價值あることを知らしめたり其後或る間者の爲に事を誤り其年五月十日より一同囚虜となり久しく吟味を受けて獄中にありと一周年翌一千七百九十七年五月二十四日我の節義の睡眠に我身を覆ふとの

一語を残してパポッフ氏の逝けり

氏の鬼籍に入るや其黨派の一人ポイメロッチ氏の逐放せられて瑞典日耳曼の各國を流寓し一千八百二十八年フラスセル府に於て己れの主義と及び曩に佛國に起りし平均組のとをば書繼りて出版せり其書や延て本國に及ぼし世界の理財家の耳を驚かし今日に到つて尙佛國勞働人の其説を賞揚して措かずと云ふ

元來パポッフ氏の社會黨の起源ハモソリーゴド、テ、ラ、チ、チ、ユ、ア氏の自然律より出たり曰く社會の目的ハ一般の幸福を進歩せしむるものにして幸福ハ平均ハ基くものなり天然ハ各人ハ快樂を給與するものにして之と給與するや甲乙數者均しく同一の權利を有するものにして凡て壓制暴戾戰闘罪過等ハ天然の法則ハ違ひしものなりと云ふべし眞正の社會ハ於てハ貧穠なく豪富なくあるべきものにして革命ハ能く現世の不平を匡濟

し普通の幸福と満足せしむるハ價するものなり云々

エチンカベット氏

續て出たるハエチンカベット氏にして氏の佛國共產黨の巨魁にして一千七百八十八年一月一日デッジョン州なる桶職師の家ハ生る幼にして神姿高徹此事ハ拘泥せず孜々として法學を脩め其道大ハ條達して郷里ハ代言の事務所と設けて之を業とす間もなく巴黎ハ移り一千八百三十年コルシカ嶋裁判官の任と負ふて遠く其地ハ赴き幾もなく主義上の爭論より冠と掛て勇退し再び巴黎ハ皈り終り議事局の議員と選舉せられたり其餘暇氏の専ら文學政治共產主義ハ身を寄せたり此間四十一年間佛國革命ハ於ける人民史と題する書を著し又「人民」と題する雜誌を發刊し以て近世社會黨主義即ちイカリヤン派の説と唱道し初めたり然るハ其論説不敬ハ渉る所ありければ氏の幽囚の身となり

逃れて龍動府に穩れサ、トーマス、モア氏の「無何有郷」を讀み大に感ずる所あり己か平均主義を益々鞏固ならしめ一千八百卅九年巴黎府に販り「イカリヤン航海」と題する哲學及び社會上の夢物語を著述したり書中「イカリヤ島」の英佛よりの小國なれども人口稠密にして古來未曾有の安樂國……平和、歡樂、愉快、幸福、限りなきの境土にして罪惡など絶て感ぜざる徳義正直の邦土なりと説けり終り一千八百四十八年六十九人の航海者又管督して住なれし歐洲の舊都を去て米國に赴きてキサス州のレッド河と目的として佛國と解纜したり是より先き佛國殖民の米地もあるもの概ね困苦と嘗めたりし又氏の來着後「ナウブ」と稱せるモルモン派の人種が巢窟せし所又殖民し新又水利と疎通し田園を開拓し其人口忽として百五十人又騰りしと云ふ是即ち亞米利加合衆國に於て共產主義の濫觴として氏の其後「セント、ルイス州」

移住し一千八百五十六年十一月九日を以て死せり

ヘンリー、デ、セン、シモン氏

予か今「バポフ、カベット」二氏を零記して之に續て掲げんとするに其目的は於ても企望は於ても性質は於ても大に差違を生じ一種の脚色新奇の理想を社會に發表したる伯爵ヘンリー、デ、セン、シモン氏を述べざるを得ず氏の一千七百六十年佛國巴黎府に生れたり氏の「シャレマン大帝」の後裔にして其先既ち第十五世紀に於て「エモンコートの」大戦に功績を表彰し家名夙に著しかりき氏幼にして傀儡卓犖嘗て其父の祖父と家督相續の爭論より訴訟を起し西班牙國の貴族の稱號と佛國の公爵の榮譽を失ひたり然れども尙五拾萬フランシの歳入所得額を得て家名を襲ふたりとき又氏の其記録中序して曰く我の「セン、シモン」の公爵を失ひたり然れども我の其名譽を繼紹して家名を顯表するに我

の胸中ありと云し妙齡僅か十六歳の時よてありし之より氏の家
 僕も命して毎朝己を喚起す下の語を以てせしむ曰く「起よ郎君郎君
 の常も經營すべきの大事業と有するも非ずや」と其後米國獨立戦争の
 蜂起するや陸軍の義勇兵も選抜編成せられ米國も赴き華盛頓の麾下
 も屬して節風休雨の艱苦を凌ぎ千軍万馬の間を奔馳してヨークタ
 ンの激戦も全勝を得終も米國の爲もコンチリス侯降伏の時證人どあ
 り終始大膽剛毅の度量ヲ顯したり爲もペンシントンナッチの賞譽局より
 褒状を贈りて厚く氏の勞を謝したりと云ふ氏の佛國も販るや僅も二
 十三歳而してアライイテインの分隊の少佐となり隊中も於て將來も最
 も望みある少年ありしが幾くもなく氏の其業務を廢したり氏も米國
 の客窓も彈丸雨中の戦場も軍事も従事せしときのもとなりき氏の友
 人も語て曰く

予も軍事よりも政治學を以て予も職業も適切ありと思惟せり火を
 踏み水と渡るの際呐喊山野も轟く人馬の喧騒銃砲の音喇叭の響予
 も耳朶も徹せず而して其原因も至微の間も醜し來る戦争其ものも
 目的も倏然予をして悲泣せしめ號哭せしめ涙血滴り快氣涌き不覺
 案を打て佇立せしむ此感情の予を將も辛苦の淵も望ましめ政治海
 も乗出さしめんとす嗚呼予も予も企望も反對して何物もか研究せ
 ん是即予も終世の目的とする所あり云々

初め氏が巴里號も乗船して亞米利加より國も販るの海上英人の爲も
 虜へられヂヤマイカ島も送らる獨立戦争の終る頃まで此處も滞留せ
 り其歐洲も販るの途次墨是哥も巡廻して豫て其胸裡も懷抱せる人類
 進歩の大計畫の一部を實行せんと欲し一大運河も穿ちて大平洋も大
 西洋も聯結するの考案も立て墨是哥副王も誘説するも其好結果あり

りき其後氏のイノスピローンと受けたる一人レヒツプ氏の其志
 と嗣ぎて今正之を實行せり氏の其後西班牙國のマドリット府へ向
 て大西洋の沿岸より一大運河と穿通せんとしたり

然れども當時佛國政府の革命の事起りて人情崩駭物議紛紜として騒
 擾繁雜……不詳の天雲の氏をして長く他事よ身を寄せ政事外よ生を
 暮らさしめす此危儉なる峻坂よ氏を導くとどのなれり然るも氏の幼
 時の教育と家庭の涵養の兩なから貴族的よして自然其氣風を負ひ其
 氣風よ感染すべきに氏の決然袖を拂て人民み左袒し一千七百八十九
 年終よ共産組と云へる一結社の社長となり己か資財の悉く其社に投
 し伯爵の名譽を全く擲ち去り平民と其伍を共よし苟も貴族的の職業
 の終生棄て顧みず常よ貧民の情態を憐み己れも亦其中よ伍して貧富
 均一の方案を研究するよ憂慮して十年一日の如し然るも氏の假令貧

民と伍し平民なりと自稱するも當時佛國よ於ての貴族視せられ敬愛
 せられ尊敬せられ社交上の氏を許すも純然たる伯爵シモン氏なりき
 是時氏の當時の裁判官(アトリトリスト)の危儉なる罪人國安よ防害あり
 と認められシント、ペルキー及ラキセンホルグの兩所よ繋かれて十一
 ケ月の苦楚を嘗めサシミドアの革命の後無事よ解放せられたり其祖
 先シヤールマン帝か顯のれ出て氏を獎勵したりとの此時よてありし
 曰く

世界開闢以來如何なる名家も第一の英雄と第一の哲學者を出した
 るの榮譽を享けたる者なし此榮譽の獨り我家のみ得せしめんか爲
 め未だ他家よ與へざるなり我子よ爾哲學者として功をなすと猶軍
 人及び政治家として余か功を立たるか如くせよと

一千八百〇三年氏か四十三歳の春より新聞記者となり社會改革者と

なり公共の事業のみ生涯を委ね同二十五年即氏か死の當年迄此事を廢せざりき之か爲め生計の大困難を告げたり餓と忍び渴と凌ぎて汲々論ずる所あり社會衆生の幸福の重んずべきあればなり赤貧洗ふが如きも厭はず壁落ち櫓朽るも意とせず一片憂國の赤心あればなり此の如く酸辛多年氏の論して曰く

詩人の想像に能く天造草昧混沌の世早く人世の搖籃を使用して黃金世界を置き所謂鉄世界の境遇を驅逐し排斥し長足の経過をなすを得べし此事豈詩人のみと止らん吾人躬窮努力して社會の改良と圖る何る必しも詩人委するを得ん人生の目的の快樂も幸福も現今鉄世界苦痛の種子と脱却して社會の改良進歩を企圖すべきなり而して吾人の黃金世界の過去を屬せず社會の秩序整ひ萬民鼓服の時代の將來を生れ來るべきものなり假令の暗夜を進路を執るの

航海者の如し暴風止み怒濤從て減すれの船舶の一定の針盤に依り一定の彼岸を安着するを得べし最早魚服を葬られ地下に瞑せる祖先……吾人の父母の再ひ逢ふの期なきも吾人の子孫の其世界に逍遙し其園を遊び其郷を頌し相娛み相笑ふの時あるべし其準備法方を講ずるの今日の急務として是即吾人の社會を盡すべき否社會に負へる義務なりと云べしと

此の如くして艱難辛苦の中を嚴正に剛毅に神聖に其道を固守して敢て動かず其財産を悉く消耗し盡し止を得ず僅か年給貳百弗を以て佛國有名の豪紳家を雇われ抄録役に充てられ一日九時間の職務を執れり其睡眠の餘暇を以て哲學社會學の奧義を窺ふと得たり氏の生涯羸弱なるも斯る境遇に陥りたるか爲る満心感酬し快々として樂まざり病床に臥したりしか其家の從僕なる一人ダードと呼べる者も救恤保

護せられたり其後氏か出版の書籍とても多くの氏か此ダードに依頼したりと予然るまダードの一千八百十年に病死しければ氏の生涯の益に難澁となり一穗の孤燈暗燭として曉鐘を待つものゝ如く顔色悴慘風相自ら骨立せり氏の尙其間書と著し志想と公よせりスア、ラ、サイヤンス、デ、アイ、ホナム及びグラビティシヨ、ユニバーセルの二著述も最も世に聲價を得たりき

氏の常は出版の費用を支ふると能はざるか爲め種々の學者紳士と書と寄せて原稿の儘之と郵送して愛と乞ひ出版の義と請求したりき其文は曰く

予か救主たれ予の飢餓も死すべし予の茲は十五日間只麩麵及水と飲み炊煙と全く欠けり故に衣服の勿論文房の雜具迄も盡く賣却し原稿の費用も充てたり是全く歐洲の政治の最早腐敗し澁滞し臭氣

と負ひ酸味と催せると匡濟せんどの微意も外ならず故に予は此貧縷と請願と世人に示して靦然自ら恥ぢず懺悔せず赤面せず却て得色ある所になり希くは該書冊と出版するも一臂の援あらんことをと此書状の氏と満足せしむべき好結果を生せざりしなれどもクーパー氏の如きの忽ち義捐も應じたり其他氏と憐み應分の救助をなしたる人も多かりき

時よ、セン、シモンの教理と題する書中冷評を加へ氏を諷刺して曰く

セン、シモンの子弟！未來の子孫！汝等の金華玉章として護れる汝等の父か残せる遺物の嘗て世人に扶助義捐……乞食して得たる慈悲の恩惠物富人より救恤せられたる襤褸囊なることを記憶せよと

氏の種々の苦痛を踏破り病魔を冒して勵精黽勉一千八百二十三年キヤテチズム、デス、インダストリースを著し同二十五年即氏か死没の當

年よハノウブ、クリスチヤニズムを著したり此二著述の外も同二十二年の印刊に係るシステム、インダストリアル、の以上三書の何れも有名の傑作なり

就中新基督教論(Nouveau Christianisme)と云へるハ一時佛國書肆の紙價を傾けし書よして爾來シモン派の學徒ハ多く此書より思想を感染せしものと見ゆ氏の死ハ瀕してチーガスト、カムト、ロードリキユス及び其他の故友ハ語りたる所を聞くハ氏の終りハ望み氏の企望の燒點とも云ふべきハ最後の三著述なることを述へ中も新基督教ハ予ハ最も力を用ひたる書よして吾人の第二版を印行するや四十八時間を経ずして労働組合の團結を生し漸次世界ハ漫延して未來ハ社會黨の勝利なりと言ひたりき

氏ハ鬼籍入りてより後ローゲンギユ、エンハンチン、バザド、ブヂェツ、の

諸氏之れを繼ぎシモン派の基礎を設立し普く佛國ハ傳播しけるガ其說法及びレプロダクチュアと題せる雜誌の如きハ一時天下の壯士輩をして耳目を驚かしめ直筆讜言以て政府ハ一令一律を發布するや學理の規矩準繩ハ従つて憚る所ある公明ハ誠意ハ討議諍論大いハ聲價を博せり加之ハ其社員の多數ハ博學有識の人々ハして其勢を得るハ従ひ新ムタラン、パリーハ學校を建築し有爲の徒弟を養生せり而るハ當初シモン氏ハ説きたるハ概ね道理上學理的の議論ハして之ハ實地ハ行ふハ基礎と固め持久の策と講し普く世界の労働者をして斯説の眞理を了解せしめ皈依せしむるハありたりき然るハ其信徒ハ最早の眞理を極端と奔馳し佛國の一小部分ハ實行するハ至てハシモン派の信相を變し目的を失ひたりと云ハざるを得ず彼の四氏の如きも其間不和を生し且柔葉の會員ハ往々過激無頼の少年の多く其社ハ汎とし

て繫かざる舟の如く動もすれば不穩の所置のみ多かりければ政府の探偵夥しく往復し警官の之を注目すること甚しかりければ須臾もして此會の解散するの不幸も遇へり然れどもエン、ハンタン氏の百折不屈の豪者なりければ再び餘燼を集め數多勞働者を叫合し學者技術家宗教家をも團結せしめ又一の會社を創立し初めたり此社の後轍は鑑みて計畫規模兩ら遠大なりしか其目的に至りては賦租をも拂はず單に平等の自由を望み貧民を鼓舞煽動せしかり幾もなく氏の再び鐵窓の下に繫かれ天日を見ざるに至る然れども其舉動の不穩なるも係らずエン、シモン學校の如きは文學も理財も政治も所謂佛國魂フレンチ・インドを涵養シ萬般の文明も裨益する所多しといへ世人の一般も許す所なり

チャールレスフリーヤ氏

エン、シモン氏の創設的と感發的フリーヤ氏の理解的と理論的の説も

してシモン氏の宗教上も關しフリーヤ氏の學理上も根據し恰も二氏の社會學上も於ける關係の尙キヤライル氏のエメルソン氏も於ける文學上の聯合を保ち相友たりしか如し故もシモン氏の後にも其企望も於ても目的も於ても相讐敵たりしとも係らずフリーヤ氏と述へざるを得ず

チャールレス、フリーヤ氏は一千七百七十二年ピサンコン府に生る父の其地も於て木綿毛布類の反物を商ふの商人として中等社會の暮を爲したるものとしてフリーヤ氏か幼時の常も其父と俱も同じ營業も從事したりき氏か蘄然頭角を表したるに僅か十一歳のときもして佛語及び羅典語も超絶して過分の褒賞を得人をして神童と呼はしめたりし一事なりき氏の又幼時地理學を好んで地圖及び地球儀を購求せり常も熱心も音樂及び花卉と愛弄せり殊も音樂の道も卓越し技術

て繫かざる舟の如く動もすれば不穩の所置のみ多かりければ政府の探偵夥しく往復し警官の之を注目すること甚しかりければ須臾もして此會の解散するの不幸も遇へり然れどもエン、ハンタン氏の百折不屈の豪者なりければ再び餘燼を集め數多勞働者を叫合し學者技術家宗教家をも團結せしめ又一の會社を創立し初めたり此社の後轍も鑑みて計畫規模兩ら遠大なりしか其目的に至りては賦租をも拂はず單に平等の自由を望み貧民を鼓舞煽動せしかは幾もなく氏の再び鐵窓の下に繫かれ天日を見ざるに至る然れども其舉動の不穩なるも係らずエン、シモン學校の如きの文學も理財も政治も所謂佛國魂^{フレンチ・ソウル}を涵養シ萬般の文明も裨益する所多しとの世人の一般も許す所なり

チャイルレスフリーヤ氏

エン、シモン氏の創設的と感發的フリーヤ氏の理解的と理論的の説も

してシモン氏の宗教上も關しフリーヤ氏の學理上も根據し恰も二氏の社會學上も於ける關係の尙キヤファイル氏のエメルソン氏も於ける文學上の聯合を保ち相友たりしか如し故もシモン氏の後より其企望も於ても目的も於ても相讐敵たりしとも係らずフリーヤ氏と述へざるを得ず

チャイルレス、フリーヤ氏の一千七百七十二年ピサンコン府も生る父の其地も於て木綿毛布類の反物を商ふの商人として中等社會の暮を爲したるものとしてフリーヤ氏か幼時の常も其父と俱も同じ營業も從事したりき氏か蘄然頭角を表したるの僅か十一歳のときもして佛語及び羅典語も超絶して過分の褒賞を得人をして神童と呼べしめたりし一事なりき氏の又幼時地理學を好んで地圖及び地球儀を購求せり常も熱心も音樂及び花卉と愛弄せり殊も音樂の道も卓越し技術

頓も進歩して一家と傲せりと云ふ氏の商用も憑り日耳曼及ポーランドを旅行し爰も全世界を一周するの企圖を起さたりき

氏の其父の死去するや其財産十万フランクを得て外國貿易を營業と
 志たりしが彼乃有名なるレイン、チフ、アラ

(佛國革命の際凶暴無頼の過激黨魁を)
 擧にして猖獗を極めたる時代なり)

際即一千七百九十三年リヨン府に圍ふ於て其資財を盡く乏盡し氏か
 店頭の毛布乃捆束の殘酷も城堡の柵欄を築くも濫用せられ氏の貯
 蓄資財の一揆の兵士等が腹と飽かしむるも至れり其災厄の獨り是の
 みならず氏の囚虜となり鉄窓の下に繋がれ日夜死刑の日を待ちたり
 き其後無事も放免せられ終る氏も同趣味を負ひたる軍中も加入し銃
 劍を肩もして戦地も臨めると凡る二ヶ年身体の羸瘦なるより其務も
 堪へず再び古郷も販り陋閭を守り苴布の衣以て己か從來の商業も從
 事せり

氏の實も日夜黽勉勵精すれども其商業も於ても資産も於ても嘗て繁
 榮せず富饒ならず况んや世界の大事業労働問題を説破して一機軸を
 出す如き偉大の志あるどの夢もだも親ざる所なりし故も氏の他の聲
 譽ある社會黨共產黨との自ら其目的を違ふし髭鬚の頃より氏の怠惰
 不出精も非ざれども一身の利慾を公共も擲ち富を得るの志も毫も
 非ざりし其希ふ所一ペンニの金錢を貯ふも非ざ一シルリングを袖
 もするを欲せば饘粥堅褐清貧洗か如くなるも厭はず小心翼々業務も
 協力熱中する所以のもの胸中只一の與ふべく救ふべく惠むべきの偉
 大なる精神……貧人を匡濟するの感觸あればなり予今氏か幼時も於
 て既も此心ありたりしを知るも足るべきものを次も掲げて讀者の一
 粲も供すべし

或る早朝のとなりき年老ひ疲衰へたる一人の廢疾者……跛足の貧

人身は襤褸を纏ひたるが二人の幼兒を携へ手は破碗を持ち氏の門
 戸は佇立しながら……聲高らかに幼きチャレス君の病氣もや……
 家人出てチャレスの病氣も非ざれども當地を去れり……此時貧
 人の目も涙を浮べ顔色愁然たり

其理由を穿鑿すれば……チャレス……

……氏か學校へ行く途中幼な心

も老人と小兒を憐み他人の知らざる間も毎朝自己か食事の一斑
 少許の辨當箱中より貧人を恵み餓を凌かしめたりと云ふ

同じ仁慈の性質を顯したるの氏か十九才のとき佛國マルセルの商

家へ在りたる時相場の目的も貯蓄したる數多船艙へ納めたる米穀の

腐敗の状と呈し夥しく貼蟹の生ずる迄も市上は齎さず若し市上へ出

せば價額を下落せしむるを恐れて悉く之を海中へ投ずるとなり氏

も亦其助力を托せられたり於是氏の饑餓も叫ぶ貧民を救恤するの法

方を講せざるべからず斯る海中へ投入する米穀の假令貼蟹の生せる

ももせよ人民も施與し貧民を賑はすべしと辨論駁詰せり

氏の一千八百〇八年も於て第四動作の理論と云へる書を著し人間

の心意を改良し務めて貧褻、貪慾、虚飾、隱謀、賄賂、瞞着、罪惡を除き凡て不

幸、災難、殘忍、放恣の風儀習慣を改めしめんと欲せり書中五ヶ年の中も

の予を扶け予も同意するもの出来るべしと然れども人間種類の不平

均の年々も増加し氏か云ひし五ヶ年の夢寐の間も經過し一人の氏を

贊助する人の出るとなく氏か滿腔の熱血の空しく労働者の企望と讀

者の耳朶も残りし曉の鐘痕跡とてのあざざりし氏の或る時英國社會

黨員ロバート、チーエン氏も書を寄せ自説の贊助を求めけれども曩も

セン、シモン氏か辨駁攻撃したる事故ありて好結果を得ざりき氏の又

世人も廣告して曰く予か嘗て出版したる社會主義を實行するか爲も

一百万フランクの豫算額を要す世人若し之か給與をなし勞働社會を死地ニ救恤し地上の平和を維持せんとせしむ予か草蘆を訪へ予の毎日正午の必ず他出せざるべしと而して氏の常ニ正午宅ニ在りて待つと寒來暑往凡ろ十二ヶ年然るニ其望む所の仁者ヒラノプロトの絶て來らざ庭前の松樹獨り肅然たり

氏か生存中唯一の機會とも覺しき一八八三二年委員局の役員か氏の目的を達せしめんか爲めニバーセルバーセルニ近き領地を贈與せり是ニ於て其蒐り來りたる人々の多く諸黨派を脱解したるもの、みなりき是と以て氏の自ら目的を満足せしむるニ適せずとて終ニ散亂せしめたり

氏の六十五歳と以て其遠大の企圖を確定するとなくして長逝せり然れども氏が末年ニ及び其説を叩かんと笈を門下ニ負ふて來るもの其

數を知らず從て其交ひる所の學友も極めて廣く其知己朋友團欒の間ニ於て晏然眠り就けり

氏か墓所ニ於て其碑銘を一讀せり氏か性質の誠實なる及び氏か終生の企望とを窺ふニ足れり

“Les attractions sont proportionnelles aux destinées,

La série distribue les harmonies.”

氏の著書中の緊要なるものニ三部あり第一部の已ニ前ニ述へたる第四動作の理論として第二の一八八〇八年の出版ニ係る第四動作及び一般命數ノ理論と云へる書として書中第四動作とは社會、動物、機關、物質の四種とし其著述の目的は四種の世界をして一定の原則ニ由りて支配せられ一種の引力に由りて活動するものなりと云ひたりき英國の大家ニウットンは精と研き神と凝し終ニ運動の法則を發明し氏は

引力の此一定の法則が能く四種に運動を貫結するものなりと斷言せり。兎も角此發明の地球上より起り來る將來の文明に新事業を驚くべき進歩を與へしに相違あるまじく普通の平和を維持するか爲め社會の喧騒紛亂より意外の旅行を導きたり

Mouvements.”

“Theorie, des Quatre

第三部の普通合同の理論と云へる書にして第一板は一千八百二十三年に刊行したり而して氏が初め第四動作の理論を著せしより爰に十四年沈思黙考大に悟る所あり其説く所も前後大に進歩する所あり博く群書に涉獵し進化改良すること多く爲る世人の眼を驚しけり

氏死してよりフリーリヤ派の社會黨はヂヤスト、ミロン氏の如きグイク、マ、コンシテラント氏の如きゼイン、ゴビン氏の如き相繼テ輩出し其主義を研究し其黨員は巴黎府は勿論全佛國に蔓延せり降て一千八百四

十年フリーリヤ派の主義は大西洋を横きり米國合衆國に於て數多の首唱者を出したり (Noyes's "History of American Socialism." Ch. xi)

ルイス、ブランク氏

前章已に述べたるか如くゼン、シモン及フリーリヤの兩氏の佛國社會黨の巨魁……泰斗ありき實に社會黨の歴史の兩氏を除き他は其超越したるものを見出すこと能はず然れども若し兩氏を説き去り是は續き主張し教導したるものを索むれば兩氏の主義の衰微を挽回し修正したるものはルイス、ブランク氏、プロイ、ホン氏及びシュル、シモン氏三人なりとす故に予は日耳曼社會黨の事を述ぶるに先ち以上三氏の畧傳を續述するの正當なるを信ず

新聞記者とて著述家として政治家として社會黨員として著名なるルイス、ブランク氏は一千八百三十三年十月二十八日を以て西班牙國に

ドクトル府ニ生ル父母ハ佛人にしてジョセフ、ボナパルト陛下より大
 藏總監を命せられ任地マドリット府ニ赴き其地ニ氏を生めり其後氏
 ハ同地ニ去り母の産地コルシカ島ニ赴きロアス専門學校に於て養成
 せられ終に一千八百三十年繼て巴黎府に留學し思を凝し精を研き盛
 雪多年其業大ニ進みしよも係らず革命の擾亂ニ其父と亡ひ孤獨幽愁
 快々として心樂まざる境遇ニ陥れり氏ハ終ニ謄寫及び教授を以て其
 業と立てたれども志想の向ふ所遂ニ新聞記者ニ轉業し一千八百三十
 四年レボン、ゼンスの記者となり一千八百三十七年其主筆となり翌年
 激烈なる鐵道問題の涌出するや氏ハ其社主と議合せずして諍論の末
 其社と去りたれども氏ハ尙其長所なる操觚の業を執て生計を立たり
 彼のナシヨナル、レビユ或ハレバプリカン等の定時刊行の新報ハ皆氏
 カ關係したる新紙にてありき

一千八百三十九年氏ハレビユ、プログレツスを發行するニ至れり此雜
 誌ハ共和主義を以て組織したるものにして氏ハ社會主義の根據とも
 基礎とも稱すべきものハ此論說中ニありしと云へり彼の有名なる勞
 働カニゼーション、エクスプロエの機關と題する書ハ氏ハ一千八百四十年中此雜誌ニ掲載せし所な
 りき又歴史文學上の著述ハ「第十年史」にして一千八百四十四年全部十
 六卷と印刷ニ付せり降て一千八百七十四年迄ニ十二板を刊行せり其
 聲價推て知るべし續て一千八百六十二年ニ完了したる佛國革命史第
 十二卷を著述せりチャレンス、サンマー、氏ハ之を評して文學上ニ於て年
 代を徹査し及び人智の開發を論じ哲學上の蘊奧を研究するニ欠くべ
 からざる千古の大著作なりと評せり

氏ハ一千八百四十八年の革命ハ特ニ著名なりき其年二月所謂一時プロレシヨ
 政府の員ニ備り勞働人アルバート、及び國會議員レデ、ミ、ロリン氏等と

深く相結び社會黨の主義を擴張し此主義を據りて以て佛國を維持せんと欲したれども如何せん其黨員の過半の之を反對したるが爲め其結果を得ると能はざりし然れども氏か勞働及進歩を論ずるよ方て佛蘭西日耳曼の力役社會の名望を博し世人をして氏の一箇の食言の能く歐洲の大勢力を左右すると嘆賞せしめたり

斯る人望を得價值を得平和と社會の秩序を保護せんとしたるよも係らず氏の一千八百四十八年の革命を關係の故と以て罪せられ白耳義國を逃走し間もなく英國に移り一千八百七十年奈破翁三世が降伏の時まで遠所の客となれり之を必竟するよ氏の英國に於て非常の待遇を受け種々雜駁の文學上の著述を關係したり氏か著述を係る一千八百四十八年の革命の一千八百七十年巴黎府に於て刊行せり氏の又佛國大新聞の十なるレ、テ、メ、プ、スの英國通信を擔任したり氏か英國に於

ける文學全集の四巻を以て完了し同六十年佛國を板行し續て英語を翻譯せられたり
 一千八百七十年九月八日所謂國民防禦政府を補佐せんと欲し氏の再び佛國の舊里を版り來り一千八百七十一年一月八日を以て國民議會を選出せられ國民の一揆を反對しパーセール政府を贊成と表し一千八百七十二年五月十四日の法律を施行するよ同意し大よ人望を失ひ氏を敬愛せしもの却て怨恨を以て相報るよ至る其法律どのラポトキン皇族と五ヶ年の禁錮を處し縲紲の苦を呻吟せしめたる最も殘酷なる法律なりしなり

氏の巴黎府を版るや勞働問題と云へる書と著し以て人間社會の動作の貧富の權衡を失するものよして其目的を反して非常よ其差を生じ來り社會を普通現れ來る有様の不滿不平の淵よして今日之を改良せ

ざるべからざることを痛論せり其後氏か一千八百八十二年佛國カンヌ府に死するどきの如き佛國議會の委員局の嚴格なる……華美なる葬式と舉行すべしと布告せり

之を必竟するも氏の性質の誠實よして卓犖朴直よして不羈敢て世に諂ひすスモイレイ氏の氏と評してエンルソンの氏かチャレンス、サンマール氏を評したる語を用ひたり曰く氏の予か知己の最も純白の精神を有する人たり人若し能く已か汚點……瑕瑾より脱することと得ば即ち氏に比することを得べしと

ヒヤッコセフ、プロホン氏

ヒヤッコセフ、プロホン氏は一千八百〇九年七月十五日ピサンコン府の下賤なる貧人の許に生る其父の樋匠よして母の優美質約なる田舎婦にてありし氏の幼時農業と執りシュラ山麓の牧場よ羊牛を驅使

するの雇丁たりし其後旅舎の給仕人となり初めて學ぶ志し或る學校に入り非常の才幹と智識と表彰し多數の褒賞と榮譽を得たり氏の十四才と出ざるも公共の圖書館に入りて群書と涉獵し十九才のとき其父か家産と失ふて落魄零丁せるの不幸を遭ひ學校をも去らざると得ざる場合を投合し學事と擲て自ら繁忙の地位よ立つよ及べり是より印刷職工の技術を學び従て學校講義録印刷の校正者となり數多有益なる神學の著述と編纂せり終る人をして氏の神學専門の學科を研究せし人なりと疑ひしめたり氏の界中傍訓と施したる聖書の翻譯を爲せし間よヘブリユ語を研究し技藝大よ進歩して彼の「舊教語彙類集」よ神學の材量と與へ之と輯集するも預て力ありし人なり

是時よ當りピサンコンの大學校よ於ての毎年懸賞問題と出して之と四方よ頌ち其秀と抜き珠を探りたり一千八百三十九年の文題の「日曜

日願賛の實理と云へるものなりき氏の其募集に應じて一冊の書籍と綴り大に世評と博し二ヶ年中に第二板を印行するに至りたり然れども右の懸賞文に合格すると能はざりし氏此時より該大學の認むる所となり一千五百フランクの恩賜と辱ふし生計を全く文學上と消費するを得たり氏の其後原語學上の探究を専らし數多の文章と草し少年中の最も望ありける人となり氏の此時既に労働問題を講して労働社會の憂ふべきと説き改革すべきものと論せり然れども家貧として資金の支ふべきものなかりしかば氏の大學より恩賜の金と得るや案を打て喜て曰く予の之より哲理道德及び最も多數なる最も憐むべき社會を匡濟するの學理と研究するを得るなりと

此時は當り氏の郷里に在りて印刷舗を創設したれども常は柔へさりき氏の終に政治理財學を研究し兼て神學及び原語學と鑿穿し大に發

明する所ありき氏か初め師として仰きたるのブングリン、ローシーと云へる勇敢なる才幹ある理財家として氏か理財上の勉勵に一千八百四十年其結果と顯はし有名なる財産論と著はしたり現今社會黨理論の骨子として書中「財産」といふ賊物なり「財産主」の盜賊なり等の新奇の語を用ひ讀者の眼を驚かしたるもの蓋し數多なり其後氏の此語を以て満足せず所有主といふ實は德義なき廉恥なき浮汚の動物……獅子身中の蟲なりと嘲評せり

氏の一千八百四十三年氏の印刷業の總額七千フランクを負債し失敗を爲せしこと夥し續てサラン及びローンの運搬事業に關したる會社と結約して一商店を開き五ヶ年を維持したりき其間氏の文學上と心を用ひ社會の實際に注目して大に悟る所あり一千八百四十六年貧困論と題する書を著したり若し氏の著述中前記述へたる財産論を第一

位とすれば二位の此書を措かざるを得ず。書中社會理財上の理論を批評と掲げたり其批評の破壊的の志想を有せり氏の實に破壊的の志想を有せしと相違あかりしなり其書の題目より“*Destrum et aedificabo*”

——予の破壊して而して再設すべし——と然れども氏の寧ろ破壊的の志想を厚くして創設的を乏しと見たり氏の又コーンラッパ氏の譯書を借りてヘーゲル派の論法を學びたり元來ヘーゲル派の佛國人士の嗜好せざる所なりければ氏の其論法を輸入して時好む適せざりしも宜なりと云べし。

氏の自ら政治家の非ずとて二月の革命の加らざりき氏の政府の組織の如何なる種類を係らず均く之れ不正のものなりと思惟し彼此相争ふ所の政黨か何れも其勝利を得るも吾人よ於て齒牙を懸るよ足らずと主張し氏の言行の世人よ尊重せられ注目せらるゝよも係

らず革命の末の頃までの對岸の火災相關係せざるものゝ如くなりし其歲四月氏のインプレゼンメント、デューピユールの記者となり六月に至り選舉非常の多數を占めて國民議會を選舉せられけり氏の貧人の好侶伴……救世者として推薦せられたり自身も亦是と以て満足し堅忍不拔厭までも異派の主義を攻撃し社會黨の労働社會を必用なる所以を述べたり七月卅一日の勞力人は便益を與ふるか爲め財政上の理論より労働者資本家雇者の三箇のものを團結し信用組織の會社を設けざるべからざるを主張し即ち「人民銀行」を創設し自ら其主裁となりたり抑も該銀行の二万人の労働者か各自金銀を使用せずして爲替手形を造り之と通用せしめたり氏の考ふる所よ由れば此の如き銀行を立たる以上の其貯金爲替の只僅少の労働を目的となしたるか爲よ非ず是より生ずる結果の労働者を増すのみよして資本家の利潤を專

有するの憂なし其銀行の創立に際して労働工夫を利したると夥しと云べし其故如何となれり物品を生産するとき其物品の五分の四を銀行にて無利足り信用手形を出したるが故に特り労働者か爲し得るに困難なるもの及び資本の爲め半途に成就すると能はざる生産と利したりと云ふ然るに政府の治安に防害ありと認め僅か三周間の後閉社を申渡されし不幸に遭遇せり

氏の新聞の發行を停止せられ其題號を變して出すと前後數回終り不隱の所爲過激の論鋒出版條令を犯したる爲め囚虜となり三ヶ年の禁錮を宣告せられたり氏が獄中より著す所の「一千八百五十一年」二月二日のクローデ、ター、によりて起りたる社會革命と云へる書冊の六ヶ月を出ざるに第六版を印行せり氏に同五十二年六月四日を以て無事に放免出獄したりき氏の再び郷里の茅屋に販り商家の女を娶り結

婚の式を舉行せり此間氏の黽勉勵精又一書を著したり題して「宗教改革論」と云ふ書中舊教寺院及び基督教徒の外神なく神學なく宗教なく信仰なきものなりと然れども舊教信者も非ず保護論者も非ずと云ひ寺院の正義正道と戦争せるものなりと斷言せり其書益々出て益々奇激烈悲愴の氣教然紙上を溢る其出版後八日を出ざるに著者の嚴格に鑿穿せられ四千フランクの罰金と三年の禁錮を宣告せられ氏の本國を脱してベルシムに逃れ一千八百六十五年パツシー府に死せり

シュール、シモン氏

去年二月伯林の労働會議に臨んで雄辯識見以て列國の使臣を壓倒したる佛國の名士雄辯家達筆の記者深奥の哲學者鍊達の政治家として世評を持難されたる七十六歳の老翁シュール、シモン氏を述べざるを得ず氏に一千八百十四年の除夜を以て佛國ローリエンの邑に生れ同邑及

バツアインの諸學校を學んで後、レトンの校舎に入りて助教の任に當り、一千八百卅五年哲學會員となり、クーン及びヴェルサイユに於て専ら哲學を脩め、殊にヴェルサイユに在りての成功甚た著しかりしを以て、師ヴェイクトル・クーズン氏を巴里に喚びて師範學校の教授を負擔せしめ、暫くの間は哲學史の補助講師たりしが、間もなく正講師となり、一千八百卅九年師の懇囑によりて其の跡を承け、爾來十二年間名聲隆々として朝日の昇るか如き勢なり。

一千八百四十五年氏のナイト・オヴ・ジ・ロヨオン・オヴ・オーノルの爵を受け、其勢に乗じて政治の世界に撞入せんと欲し、翌四十六年左中黨の候補者としてランニンの選挙區を争ひたれども、終に敗北し、翌四十七年同僚アメデーイ・チャツクス諸氏と政治哲學的評論雜誌を巴里に興し、盛に筆鋒を揮ふて名聲益々著しく、明くれば一千八百四十八年革命已

に終りて、氏のコーテ・ツウノールの選挙區より下議院に入りて左中の席に據り、勞働條例制定の委員として盡す所頗る多かりしが、翌年カ
ランセル・ステートの一員となり、代議士の職を辭したるに次て、其半數改撰の時、臨んで撰任に漏れ、是より數年の間の暫く身を公生涯より退けり、三世奈破翁クイ・デマリの事起るに及び、氏の帝國を奉ぜざるの廉を以て其講演を停められ、又博士の職を辭したるものと認定さるしが、一千八百六十三年再びセーヌの第八區より議院に列し、一千八百六十九年の頃に至りては何時しか共和黨の領袖と仰がれ、雄辨家の譽れ高く、貿易に關する條約對論の起るに及び、理財家として著しく才器を顯し、熱心なる自由貿易の辨護者たりしに、世人の遍く知る所なり、奈破翁朝倒れ、普軍百萬佛京を圍んで社稷正に搖動するの危機に臨み、氏の假政府の下に大臣の席に列して、教育美術儀式の事を掌り、戰已に終

る及び命を受けてポルドーに至り三寸の舌鋒以てガムベツタをして其權を解かしめ同七十一年チエール氏に撰まれて文部大臣の職に就き一千八百七十三年職を去て左黨の舊席に復り議長となりしが越えて七十五年終身議員として上院に入り翌年十二月デユフチーア氏の跡を承けて總理大臣の椅子に着き内務大臣及びカオンシル議長を兼ね又此時を以てアカデミーの會員となりたるより一千八百七十七年マクマホン氏と議合のす終り其職を辭し下野ありて野ありて盛ふ其勢力を張り一千八百七十九年中の如き力を極めてシユルフェリー氏か其筋の允可を経ざる宗教的會合を廢滅するの議を論駁し翌年のアカデミーより高等教育議會の一員に撰まれ同八十二年ミクチー氏に代りて倫理學政治學専門の幹事となれり爾來氏か名聲の愈隆り佛國の名士と云へり必ず一指とシモン氏に屬せざるいなし一昨年氏の自ら上院

を出て、下議院に入り又他の諸名士と供り自由同盟を組織して以て武將軍を國境の外に逐ひ又佛國を代表して伯林會議に臨み落々として氣焰を吐けり斯の如く政治社會的運動に奔走するの餘其著述も亦少からず政治哲學歴史其他種々の雜纂又諸新聞雜誌へ投書せり論文よして頗る人口に膾炙するもの多し

第十三章

英國社會黨員 ロバート、チャーレン氏
并ニ其主義ノ政社

英國に於ては彼のセンシモン派の人々か佛國に其説を創めたると同
 時、ロバート、チャーレン氏か社會改良の必用を説き大に公共の輿論を
 惹起したり氏の注目する所の人の全く其外部の事情より成立する
 ものにして其性質を造り其幸福を全ふするか爲の願望の一よ之より由
 るべきものにして其外物の關係よりて變化進歩すべきものなり氏
 は自ら其資財を擲ちニウ、ラナークと呼べる所の一の製造所を創立し
 是は殖民の事業を初めたり其主義とする所の労働人を結合するの目
 的より出たり就中労働者よりて報酬の正しきと家計の整頓せざるべか
 らざると、鰥寡孤獨を救恤すべき事等大に該社に益する所あり又氏を
 して満足せしむるの地位に到達せり然して氏の亦一箇の無裁哲家な

るか如く時よ政治家なるか如く時よ宗教家なるか如く其説く所高尚の義理を有し宗教上政治上悉く人間界の不完全よして改良せざるべからざるを痛論せり

氏か設立よ係れる會社のニウ、ハーモニー、インヂヤナ、チルピストン、スコットランド等よ散見したり實よ氏の燦爛虚空を斬るの手段……嶄然旗を英國よ翻して各國の勞働者靡然として氏の聲よ應し迅然として社會主義の轟雷の電光影裡蒼穹よ聳へ出しハイドパークよ集會する數萬の黨員の「雇主撲滅」又「之よ與せざる職工の奴隸なり」等の句を押し立て、「白眼看他世上人」よ至らしめたり氏の終よ獨り英國よ留らす其主義を宇内よ輝さんとして世界を漫遊せり然れども世界の頑固の一遊星よして氏の既よ其己の企望の全き好結果を觀ずして遠く黄泉の客となれり然れども今や社會主義の日々よ倍々其勢力を加ふる

の實あるも亦得て疑ふべからずの時期よ接したり知らず氏の地下よ瞑するや否や

其他英國の均一黨の政社の一千八百六十九年の國會議案よ由れの總計一千三百〇八箇所よして其總計の人員の廿四万九千百十三人資本の總計二百〇三万四千二百六十一磅よして貨物の總高十九万七千七百廿八磅一ヶ年の賣上高平均九十一万二千百廿七磅而して建築土地家財の總額九十六万二千二百七十六磅教育學事費の三千七百七十五磅なりと云ふ現今スコットランド愛國黨アイヤランド、パーネル黨等を計算すれば英國の三分の二の蓋し社會黨員なりと云ふべし(アメリカンサイコロペデヤ)

英國の中最も成功多き未曾有の隆盛を極めたるものハチーエンの主義よ基き創立したるロチデル氏かエクイテイブル、ピチニヤス會社な

り其主眼とする所の人間必須の物品を賣捌くべき商店を設くる事なりき即ち一千八百四十四年十一月に於て開店したり三年を経て職工局を置き同五十二年靴舗衣服仕立舗等を設けクウペレノシヨンの組織を設け英國を利したるといふ本書第五章に詳論し置きたれば今後之を贅せず

第十四章 日耳曼社會黨員の畧傳

ロツパトマス氏

コールモツクス氏

フツセル氏

予の之より進んで日耳曼の筆を及ぼさんとす抑も日耳曼社會黨といふ廣く世界に其主義を蔓延せしめたる最廣く世に行はれたるものにして之を有名の都府に索むれば巴黎或は伯林、新育或は維納、シカエ或はフランクホートに於ける皆其重要なる巢窟所なり其組織の周到なる學理の深奥なる蘊奥神妙なるに至りては數言の能く盡すべきは非ず宜しく再三再四熟考研究して尙僅く其一斑を窺ふに足るのみ日耳曼有名の博學家理財學士チャフル氏の云へることあり曰く「日耳曼社會黨の趣旨を探らんと欲し爰に數年を経過消費し尙未だ一斑を知るに至らず此學の深蘊思ふべきなり」と而して其勢力の益々鞏固を致し心

意と思想の根底と固くし其活動の機關の論理哲學と以て城壁とし其
 主唱者……教導者の堅忍不拔なる固執心企業心お據りて進軍を爲し
 つゝあるなり其教導の聯隊旗の全く科學上の精神を以て訓練し生理
 學上より靈氣論サイコロジカルより社會上の組成及び自然の環象より基礎を最も殘
 酷なる悲惨なる法律中より惹起せしめ獨り労働者流を留らず歐洲現
 時の政治家政治社會を破竹の勢……シーザー、アレキサンダー、モー一歩
 と譲らざるべからざる程の猖獗旺盛の姿といなれり

加之の労働者の貧困及び資本家の奪掠の恰も惑星の運行の動すべか
 らざるか如く吾人理財社會は於て歴史政治録演說書統計表等より相
 争闘して停まず世界各國の報告の不平不満の山をなし其事實の擧て
 數ふべからずされば此不平不満の事實を穿鑿吟味したるの英國労働
 社會の事情の著者フリッツ、エンゲル氏及び各國理財の組織或の労働

機關を就て調査案の著者ケイ、モーロウの二氏なりとす而れども以上
 二氏の他も重要な事業なきを以て茲に之を贅せず吾人の寧ろ彼の社
 會黨員として有名なるロツバスター氏モツクス氏及びラッセル氏の
 三名士を逐次縷述せんとす

コール、ロツバスター氏

氏は一千八百〇五年より同七十五年迄生存せし著明なる社會黨員と
 して學問該博、才幹勇氣共々世人の尊重する所たり嘗て法學を脩め學
 士の稱號を得其學を以て名あり後ツヤシエフォと呼べる所のプロメ
 ヤ村に田地を購求し耒耜を執て耕耘を事とせり故に世人氏をロツバ
 ー、スター、ツヤゼシオと渾名せり氏は同四十八年の擾亂の際政治家とな
 りたり同年國會議員を撰出せられ翌年プロシヤ國會の第二局の員と
 列し或時よりプロシヤ文部大臣たりしとありたりき幾もなく冠を掛

て勇退し再び故郷に皈り無事閑散し風月を眺め鴨鵝を友とし科學上文學事業に心神を勞し特し羅馬史に思想を凝し頗る進歩する所ありき氏の古來未曾有の社會黨員として純正理論社會黨の最も重すべき代表者たりしなり伯林なるワグナー博士の氏を呼んで社會黨のリーダー氏なりと云へり蓋し人身上品行上凡ての連想かりカード氏に附合したりしなり……氏の生涯の閑散なる風塵外の境遇に居住したる……他の社會黨の如く最危儉ある政治論壇に踏込まざりし事等の勢ひワグナー氏をして此評あらしめし所以なり氏の又曰く學理の社會黨の政治理財の學が輕忽よし能はざる寧ろ最も重んずべき所の眞理を啓發するものなりと是即ち凡ての理財家か異口同音に贊意を表したる明言なり而して學理社會黨とい氏か執りし所の主義も外ならざるべし

氏の文章に高尙優美绚烂華麗自ら剛強の氣性を顯はしたれども間々信偏^{教育}牙難澁の譏を免かれず故に下等勞働社會の如き其意義を解するに困み從て其説を注目するものも寥寥の星に似たるの傾きあり然れども當時の大理財家……碩學鴻儒の鼓膜を驚し後世の學術に裨益することの多き疑を容れざる所なりき
氏の著書の緊要なるものを擧ぐれば

一「理財事情」一千八百四十二年刊行

二「ボン、カーチマン氏への社會上の書翰」同五十二年刊行

三「社會問題註解」一千八百七十五年刊行

四「定規勞働日」一千八百七十一年刊行

五「日耳曼勞働聯合會の委員へ宛たる公開書狀」

六「信用の地主に必用なる説明并之を輔くる尺度の立案」一千八百六十八年

氏の目的の自然に激烈なる抵抗を調和し上下輯睦下民の幸福を享けしめんとせり而して其方法を至りての勉めて人間理財上生計的の改良すべきと論じ其原因の貧窮及び商法上の害悪及び國庫歳入の必迫の二者を基因せりと痛論せり

コール、モックス氏

ロッパータス氏を繼て起りしと同く社會黨理論家の巨魁コール、モックス氏なり氏の日耳曼ツレプス府の門閥家として一千八百十八年郷里に生る其父の改宗したる猶太人として政府に仕へて名望あり高貴なりし人なり氏幼としてボン及び伯林の大學を法律を脩め後終にヘーゲル派の哲學を切磋黽勉し耐忍揣摩能く一家をなすに至れり而して一千八百四十一年フンデラツキ、ウイッヤム第四世のプロシヤ王位

に即くは當り氏は文學上より發揮養生せし富贍なる思想の忽ち變じて政治家及び新聞記者となり嶄然頭角を顯はし霜雪を凌ひて鬱勃せし多年の勇氣の一切を咲くの時期を得るに至れり

氏が當時有名ありしレニツシユ、ガゼットの新聞社に入社し其主筆となり眞摯勇敢縱横自在に政府を批評し駁殺し罵倒言顛傍ら人なき如し之が爲に政府の伯林より偵吏をコロムに派出し該新聞の檢稿を嚴しし過失を待て停止せんと百方手を盡せども氏の過激の文章の却て思慮周密通篇概して嘲るか如く諷するか如く笑ふか如く泣くか如く言辭圓滑……突梯滑稽脂の如く韋の如く捕ふる所なく法律を犯す所なければ政府の其手段を困し果て一千八百四十三年を以て單に治安を妨害ありとして其發行を禁止せり氏の其自説を表明し政府を攻撃するの理財學上より精確堅固の立論を悟得するに加かず是即日耳

曼現時の急務なりと思惟し佛國の其目的と違すべき地なりとして然郷國と距り巴黎に赴き其學科と研究し慷慨憤激毎にプロシヤ政府を攻撃論難せり終にギプー氏か普國の驕心を買ふか爲に氏の佛京と放逐せられフテツヘル府に逃れ諸大家の門と叩て斯學の奧義と究め刻苦砥礪大に其實と擧げ特に氏か長所の理財學に於ては是時己に其見識の緻到なる精妙なる世人の感動と惹起せりと云ふ

一千八百四十七年氏のフリードリッヒ、エンゲル氏と共に共產黨の主義を草し之を坊間頒布せり曰く

共產黨の自己の意見と目的と發露公言するに何の憚る所か是あらん吾人の目的は現今の社會と激烈に衝突し倏忽に顛覆し盡さんとす而して世の所謂治者の如きの共產黨の革命を據りては勿論震慄懺殺せしめんとす之を反して下等賤民の失ふ所亡す所の從來困却せし歴

制の鐵鎖のみ而して彼等賤民の得るべく恢復すべきもの茫々廣大なる一世界と有するなり各地各國の下等賤民！吾人か好朋友なる最多の人々來て共に團結せよ後來の社會の諸子の驥足を延ばし諸子の安息すべき公領なるを

其翌年エンゲル、ウルフ及び詩人フレイリ、グラツス等ノ諸名士がニウ、レニツシユ、ガゼット新聞を發刊するに當り氏も亦本國を販り其員に列し一ケ年間の斷へず労働問題と説て労働社會の狀態の憐むべきと論じ日耳曼獨立黨及び其他反對黨の悉く之を筆誅し羸す所なく以て議論稍極端に奔馳し社會を擾亂するの兆候あるの譏を招くに至る於是該新聞も亦同四十九年を以て禁止の嚴命を被り其主唱者の本國の都に追逐せられたり氏も亦再び英京龍敦の異郷の風月を吟嘯し永く故山と踏まざるに至る初め氏かニウ、レニツシユ、ガゼット新聞の禁止

せらるゝや詩人フレリグラツシユ氏の得意の雄壯なる秀逸なる流麗なる美妙の詩賦と掲て不朽不滅の精神が其敵を亡ぼし己等が凱歌を掲げて該新聞を再刊するの日を期したり次は掲げたるハッヨソラエ氏か所著の「コール、モックス氏の社會黨及び新ヘーゲル派」と題する書中アーネスト、ジョン氏の英譯に係る「ニウ、レニツシユ、ガゼット新聞の告別」と題する詩賦なりき

ニウ、レニツシユ、ガゼット新聞の告別

告別や未來永却の告別ならで

我兄弟よ魂魄の不生不滅のものなるぞ

我今倒るゝも轟聲おらば忽ち起きて來らまじ

他と戦ふ其時の大膽勇氣と一層し

玻璃の如きの○權のいかでか破らで捐かむ

我悲みの騒ぎし舞臺

人民の罪過を話す憂き事ハ

汝の味方、我と剛毅を見出せよ

ライン、やダニープ河畔まで

約束固く守りてハ

○○と踏て野山の中よ

躍りて亂○我と待たまじ

氏の倫敦府に在るや主として人民を煽揚獎勵し絶へず文學上の攻究を懈らず一千八百六十四年萬國勞働法を著し同六十七年「資本」と著し同五十九年「理財學批評」と著したり氏の又資本と云へる書中相約して三卷を以て完全なる政治理財學を著すべしと然るも「資本生産の法則」と題して初卷を發兌せしハ氏か遠逝の後なりき其餘の二卷ハ氏の故

友フレードリッチ、アングル氏が考訂したる「流通資本及理財法及理論史」ト云へる書冊なりき就中資本ト云へる書の社會平等論の龜鑑……理財學上の聖賢なりとして尊重せられつゝある者なり其說一點の塵垢と存せず微を啓き幽を探り古書を参考對照して腐儒庸吏の眼と攪破し無端リチャド、エリ博士として予の該書の「リカード」氏の政治理財及租稅論と等しく理財學上の一機軸を出したりと賞嘆せしめたり
 氏の倫敦に於ける生涯の幽逸閑雅を娛み潜德幽光山智を丘鑿よ恣よし漁獵の餘暇筆硯と弄して草稿爲よ扨上よ堆く思と著書文章よ用ひ時としての新育トリビュン、の倫敦通信を擔任し奇聞異說大よ世評を博したり氏の夫人とゼミー、ボン、ウエスハルン、と云ふ同名の普魯西公使の令嬢よして四子と擧ぐ二女子の有名なる佛國社會黨員よ嫁したり氏嘗て男子と失ひてより神心悵快として快からず一千八百八十一

年不幸其妻の死よ際し愈々天地生物の無情と感し潜然嗚咽病床よ臥して復起たず

氏の死後霎時よして北米合衆國の各地各洲よ於て法律の許す限り氏の記念し氏と尊崇するか爲め有志者の集會と催すもの其數と知らず其綱領の大要と掲ぐれば勞働者と救濟するか爲め氏の著書功業、思想と表彰したる告諭書と撒布し傳説し廣告するか爲め有志の聯合大集會と設くべし其大集會の新育市のクウパー、インスチ、ユトよ於て催したり次よ掲ぐるもの其主意書の緊要の事項よてありし

吾人勞働人及び家産と譲り受けざるもの全國自由の眞実の朋友として吾人の大思想家勇士辨者としてコール、モックス氏の死と吊す嗚呼氏の死の自由及び勞働の問題よ關し國と憂ひ民と思ふの士は天下公共の爲よ號哭し悲泣嘘啼せざるべからず

吾人の氏の姓名と著述の永く之と記憶し氏の思想の載て書冊に在るものと傳播し普及し吾人の協心努力すべきものなりとす

吾人の既に溘然永眠し就きたると哀悼すると同時に氏が吾人の先覺者たりし所の原因……價值ある高風氏か遺物の記録……吾人か一瞬片時も忘却すべからざる金言——「世界の勞働人來て予を聯結せよ」の一句の訴訟と感銘拜戴實地に舉行せざるべからず」と是と大同小異の綱領と掲げて氏と哀悼吊慰せしもの續々踵と接しバ
ルチモア、シカゴ、クレンブランド等其最たり

フニシナンド、ラッセル氏

氏の又争ふべからざる社會平民政治の頭株屹然一家の持説と執て動かざる推理家とありし數多の關係かモックス氏に符節を合するか如くなりし氏も亦フエブリウの苗裔にして上流社會の人種たり氏も

亦下等會社ノ平安と維持せんとし自ら辛楚と嘗め幾殆の地も身と犠牲も供し仁慈と施したり氏も亦大學の學士たらんと誓ひ果さずして失敗したり

ラッセル氏の一千八百廿五年ブレスリウ府ノ富豪の商家に生る父の氏と商人たらしめんとせり然れども氏の哲學及原語學と研究せんと欲してブレスリウ及び伯林の大學に入學し嶄然頭角と顯はし數多の有識の人々より賞嘆と辱ふせり現はウイールム、ボン、バンボルト公の氏を神童なりと評せりと云ふ

氏の最初の著書の「湮滅秘隱なるヘラクリタスの哲學」と云へり其後「權利理法」と云へる法理學の著書をなせり大法理學者セビーネ博士の之を評して十六世紀以來僅有の一大法律書なりと云へり此書一千八百六十一年に世に公せり是より先き富豪なる兇猛なる殘忍者の妻ボ

ン、ハツフェルド伯爵夫人の訴訟の遷延して擧取らざるを以て終る氏
 の之は關係して八ヶ年の後全勝を得氏に古代の強を挫き弱を扶くる
 義俠勇士に用ひたる巡行勳爵士ナイト、エラントの爵位を得て世人は賞賛せられたり
 氏に一千八百六十二年労働社會の改良を企圖せんと熱心盡力し日耳
 曼民政黨の基礎を設立せり是より先き労働人の結社の佛英は萌芽し
 て追々隆盛を極めたりしかども無味淡白なる日耳曼人への何の感
 もなく従て之を誘導するものも甚だ稀なりしは氏に初めて之と大團
 圓編成し宛然權力ある一黨派たらしめ労働者の自由を指揮する先鋒
 たりしなり

氏の實体上より現政府を攻撃せず専らロツパーマス氏及びモツクス
 氏の主義を據りて理財上の論難をなし取捨折衷したる所ありと雖も
 概ね深玄幽遠の原理を説き圓滿寂光の大論を吐き文章の飄逸なる瑰

奇なる富瞻なる尋常人の解すべからざるのみならず教育ある人と雖
 も往々讀み難き所悟り得ざる箇所なきは非ず演説説教も亦モツクス
 氏に倣ひ雄辨世人の耳朶を驚かすもの少なかざりき
 氏の「リックード」氏の「給料法を訂正解釋し名けて「給料の鉄法」と云ひ其趣
 意を充分に明亮に説明し労働者の給料の下落を赴く所以……之を匡
 濟する法案を説明せり氏に執れる所の主義綱領は全く之の外ならず
 と氏の自ら公言せり

氏の「拾萬マラー」の信用貸與を政府に得以て生産を裨補する協力會社
 を創設したれども此限ある資金を以て限なき遠大の目的……労働者
 の給料を匡濟し學理實地に應用せんとする豫想に達する由なく苦
 惱蹉跎其日を消し又一法策を旋らし壹億マラー或は七千五百萬弗の
 要求を公言せり然れども之を承諾する人どてに絶てなく従て氏の思

想の變じてラッセル氏の説出せる社會民政黨を愛慕し終ふ眞正の社會黨を編成するに至れり一千八百六十三年五月二十三日日耳曼社會政治黨の初めて生れ出たり其當時の數人のレープツク府の會合して氏を邀へて仰て主領となし普國日耳曼労働者組合と稱せるものを組織したる迄なりしが漸次此組合の會員の其數を増し社會黨の機關となり終ふ内外の政治の關係し富の生産及び分配の成存を攻撃し全く之を改良せしか爲め破壊し去らんとする一種危激の狀勢を醸したり(インターナショナル、レビユ)

氏の常々慷慨なる語を用ひて吾人社會構造の不完全なるを論じ讀む人聞く者をして覺えず凄愴の想脊を流汗せしむ殊も世の所謂——富者素餐者——の罪惡、貪慾、無情、無慈悲なるの氏の緊要の題目よして零丁し苦難し失望しながら容易に満足の意を表し優柔緩慢、首を垂れ

尾を下げ苟且因循、人權を害する日耳曼労働人の卑劣なり野心なり痴漢なり人よして人よ非ざる動物なりと論せり(ロズドハ、リッド)終る日耳曼労働人の非常な激昂し來り氏の憤怒せし所を憂慮せし所を、大に其功を奏し最初を煽動するの苦みたるを比して永久未來及びぼす不平不満の種を流傳し氏も亦平穩な之を宥むると能はざる迄沸騰し來れり氏の熱心な剛毅な其説を墨守し爲る政治家の顔色を變し王公の震慄の意を表し能く世界開明の諸國をして消極的の注意……杞憂をなさしむるに及べり然れども氏の其労働論の好結果を見ると能はずして鬼籍に入り従て其社會黨組合も亦意の如くならず社會民政黨も未だ政治上の權力を得るに先ち半途よして氏の婦人件に關し諍論の未終る決闘をなして死せり人の棺を蓋ふて事定るものなり氏の死後氏の説を信するもの生前は十倍し形骸朽ち去つて名譽の益

顯榮したり各國の勞働人の訃音を悲み奇世の慷慨家、憂國者、勇猛者として待遇し推尊したり兎も角氏の才幹學術とも秀逸なる岩霖なる洒落なる偉男子なりビスマーク公の如きも常も左右に語りて曰く氏の非常な活力ある熟練なる超邁なる人にして氏と談話するときの舌端快氣湧き神心自ら爽然として數時間お渉り尙盡きず去るを悲み來るを待ち我郷里に斯る才能ある人士のありたらん定めし樂ならめと頑健老猾、炯眼歐洲を睥睨せし養ても焼ても食われぬ鉄血宰相をして此評あらしめたりラッセル氏の氣量推て知るべきなり

第十五章 近時日耳曼ニ於ケル社會黨ノ勢力

現今歐洲に於て政治家理財家の頭腦を痛ましむるもの社會黨か勞働の問題を掲げて資本家を抵抗し同盟罷工に至る所、其喚聲を聞かざるはなく社會人民の大部を形成する勞働人民の平民主義社會主義の理論を應用して益々團結同盟し豪族政治王政主義の人々の最も憂慮する條件を講求しつつあるなり此派の主義を奉するもの前章既に縷述するか如く歐洲中最も日耳曼に旺盛にして現に讀者の知ふるゝか如く去年國會議員の撰擧に社會黨の勢力最も鞏固にして當撰者三十五人及び十二萬四千票の大多數を獨占せり無端世界の豪傑獨逸の柱石廣き十九世紀の歴史に閃爍たる鉄血宰相をして後より瞠著たらしめ人多くして能く天に勝ち老翁未だ政治海に倦怠羸弱ならざるあ……秋風搖落の候に先ち、しかも春色艶滿なる三月二十六日を以て

退隱の不幸に陥らしめたり社會黨の勢力も亦盛なりと云べし

此撰擧の時、當り日耳曼國の所々の撰擧區に於て辨論評議實に甚しかりき。就中伯林第五區條補者アウエルバ氏の如き、黨員中鏘々の間ある人にして雄辨滔々激論して曰く「社會黨の王政を變して共和政とする位まで、未だ足れりとせざれども、先づ其政体の變更を主義實行の端緒とすべし。社會主義の萬國の勞働者協同して其擴張に従事せざるべからず」と論じ、其辨舌の流暢なる論鋒の鋭敏なる伯林都人士の眼を醒し、聞くものをして悚然たらしめしこと、此撰擧の勝を制したる源因なるべけれど、一千八百七十六年以來社會黨放逐條例に由りて所刑せられたる同黨員の住み馴れし里離れ行く寒さ……家と思ひ國を想ふの一念の雨となり霧となり霰となり、忍耐苦行氷結凝團して終み能く去年の勝算を得たり、其來るや一朝一夕の故に非ざるなり。一昨

々年六月六日の如きもヒスマーク公の「廢老勞役保護條例草案」に就き、勞役者の意見を定めんと、の主意を以て演說會を開き、痛く世上の注目惹き起せり。今其概畧を擧ぐれば、右條例の全くヒ公の政略に出たるものにして成るべき丈、け老役者を保護し、仍て政府に對し不平を抱かざらしめんとを目的とせり。然れども、此草案たる當時社會黨の主張せし改正論を採用せし者、非ざるや固より論を突かず、故に社會黨の却て一切此草案を廢棄し、益々政府に抗敵せんと決意せしもの、如し、特は其草案中社會黨の意に適せざるもの、第一保護の爲に徵集すべき積金の之を三つに分ち、政府と製造家と勞役者と各々其一分つゝを出すべきと、第二勞役者より之を取立つるに付き、其請取帳なるものを作り置き、且つ間接に之を所謂勞役帳なるもの、に代用せんとする事、第三廢老者に配當せし保護金高の三十三ペニヒの日當を給與するに過ぎざ